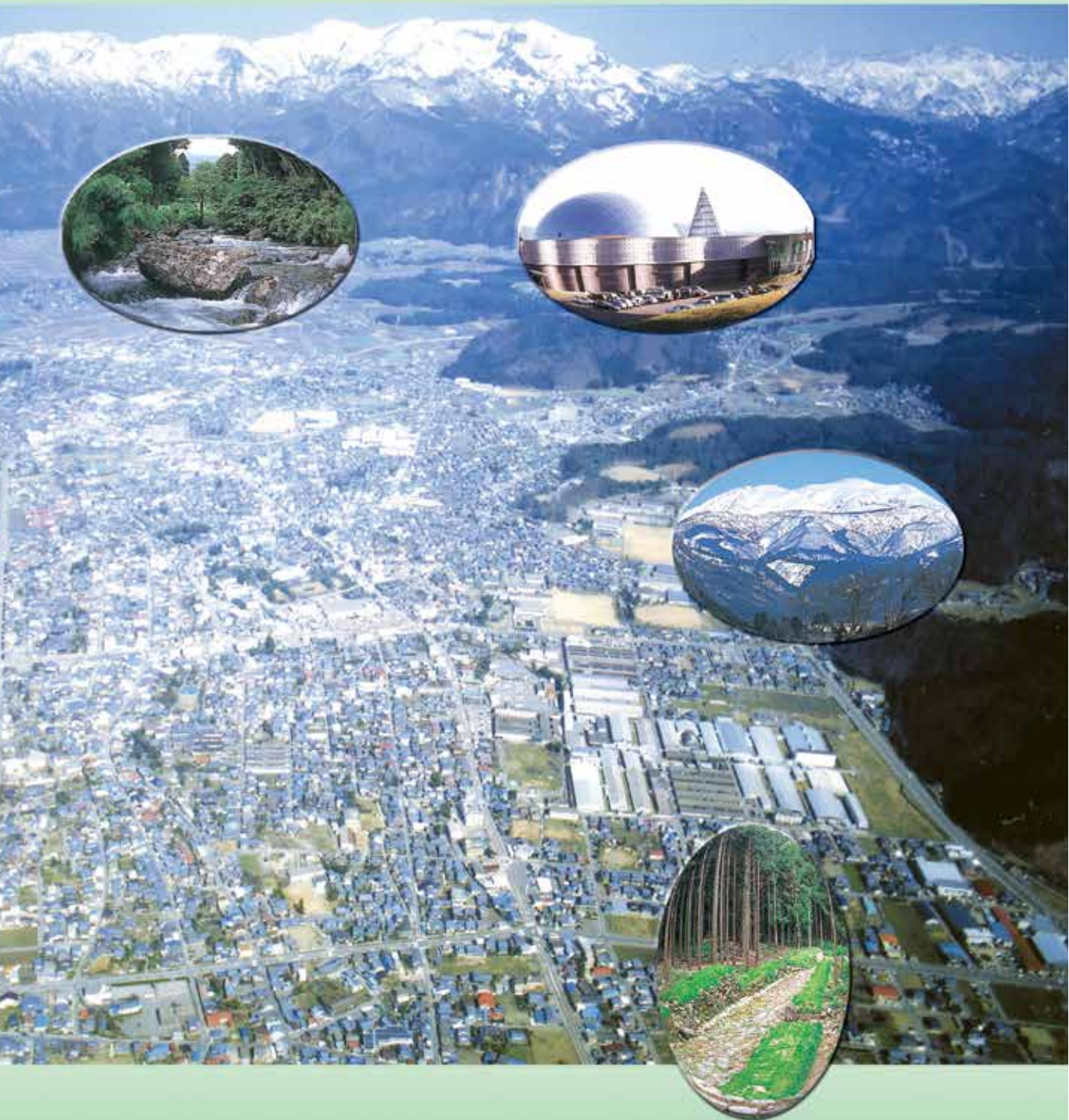


私たちのまち 勝山



勝山市教育研究会 社会科分科会

■地理的分野

第1章 身近な地域の調査

- 1 身近な地域を見直そう
- 2 調査テーマを決めて、見通しを立てよう

第2章 勝山市の調査

I 多面的に調べよう

- 1 用水、ため池とわたしたちの暮らし
- 2 勝山の気候と暮らし
- 3 勝山の伝統行事と観光
- 4 勝山の特産物
- 5 勝山の都市計画の歴史

II 調べるときに参考にしてみよう

- 1 全国から見た福井県のことを調べるなら
- 2 福井県のことを知りたいと思ったら
- 3 役に立つインターネットホームページ
- 4 博物館などで資料を得るなら
- 5 図書館で資料を得るなら
- 6 その他

■歴史的分野

第1章 勝山市域の歴史ストーリー

- 1 大地形成と恐竜の時代
- 2 先史～川と山の恵み～
- 3 古代～毛屋郷の開発と平泉寺のはじまり～
- 4 中世～平泉寺の発展と「かち山」～
- 5 近世～勝山城下町と周辺の村～
- 6 勝山の藩校と筆塚
- 7 近現代～たばこ・繊維産業の隆盛から勝山市の誕生と地域づくり～

コラム 近現代の日本と勝山

- I 大正期
- II 昭和初期
- III 戦後
- IV 勝山市の誕生と高度経済成長

第2章 地域の特徴

- 1 勝山市の成立
- 2 勝山地区
- 3 猪野瀬地区
- 4 平泉寺地区
- 5 村岡地区
- 6 北谷地区
- 7 野向地区
- 8 荒土地区
- 9 北郷地区
- 10 鹿谷地区
- 11 遅羽地区

第3章 文化財保存活用地域計画と日本遺産

- 1 文化財保存活用地域計画について
- 2 日本遺産について

■ 公民的分野

第1章 勝山市の政治と自治

- 1 私たちと勝山市の政治
- 2 地方分権と住民参加

第2章 私たちの暮らしと税金

- 1 財政と税金
- 2 租税の課題
- 3 勝山市の歳入と歳出

身近な地域の調査



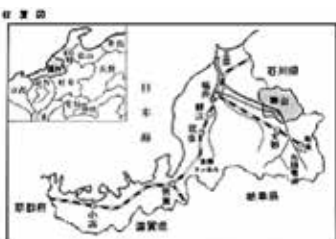
わたしたちは、小学校時代から校区調べや町探検を通して、身近な地域に親しんできました。しかし、まだ知らないことや地域が変わったため、新しい発見があるかもしれません。そこで、中学校では、自分で関心のあるテーマに視点を当てて、実際にその場に行って、見たり、聞いたり、記録したりする調査をしましょう。

そして、調査の結果をわかりやすくまとめて、いろいろな方法で発表してみましょう。



1 身近な地域を 見直そう

▲
日ごろあたりまえにくらしている身近な地域を、改めて中学生の目で見直してみましよう。



身近な地域再発見

勝山市にくらしているみさえさんとよしきさんは、前ページの勝山市の市街地の写真を見て、クラスでいろいろなことを話し合いました。

「大きな川が流れているね。川の流れる地形や人々の生活にどのように関わっているのだろう。」

「緑が多く、自然が豊富だけれど、市域に住む人々はどんな生活を送っているのだろう。」

そこで、身近にくらす地域が、どのような特徴を持った町なのかを考えてみることにしました。

まず、現在の勝山市の地図を見てみることにしました。

Check Up

地形図は、実際の地形や土地利用、建築物などさまざまな情報が、地図の約束ごとによって描かれています。地形図を読むためのルールがわかれば、そこからたくさんの情報を得ることができま

土地利用	建物・施設	道路・鉄道・境界
田	建物 (中高層建物)	2車線道路
畑	建物密集地 (中高層建築街)	軽鉄道
果樹園	市役所 東京都の区役所	徒歩道
くわ畑	町・村役場 (指定都市の区役所)	国道および 路線番号
茶畑	図書館	有料道路および 料金所
広葉樹林	血 博物館・美術館	普通鉄道 (JR線)
針葉樹林	記念碑	都・府・県界
竹林	風車	北海道の支庁界
ささ地	城跡	郡・市界, 東京都の区界
荒地	史跡・名勝・ 天然記念物	町・村界, 指定都市の区界
	墓 墓地	
	△ 三角点	
	□ 水準点	
	◇ 灯台	
	↓ 漁港	

●地形図の読み方

- ①地形図の縮尺を確認する。
- ②等高線の様子から、地形の特色を読む。
- ③自然の地形と市街地、交通路などとの関係をつかむ。
- ④地形と土地利用との関係をつかむ。(土地利用別に着色するとよい。)
- ⑤古い絵図や地図と比較することで、地名と地域の歴史的变化を知り読み取る。(幕末勝山町図、昭和33年地形図、平成10年地形図)

地形図の見方

地図には、等高線や土地利用などの情報が多面的に表現されています。地形図には5万分の1や2万5千分の1といった、縮尺の違ういくつかの種類があります。

よしきさんたちは、他の市の地形図などとも比較しながら、勝山市の特色を読み取って見ることにしました。

ためしてみよう

- ①次の場所の位置を確認して、○で囲みましょう。
{ 自宅、市役所、勝山橋、市立図書館、長尾山、平泉寺 }
- ②海拔100メートルを赤、200メートルを緑でたどってみましょう。
- ③九頭竜川とそれに流れ込む次の川の流れを、青鉛筆でたどってみましょう。
九頭竜川右岸
女神川、浄土寺川、暮見川、滝波川、皿川、岩屋川
九頭竜川左岸
鹿谷川
- ④土地利用の様子を見て、気がついたことをそれぞれ出し合ってみましょう。
【どこで、どのような農産物がつくられているでしょう】
【市街地はどこからどのように広がっているでしょう】
【どのあたりに工場があり、どのように位置しているでしょう】

◎地図からわかる勝山市の特色

- ・市街地の中心部は河岸段丘上に形成され、段丘崖を境に上部にはかつて城跡もあった。下部には商家が立ち並び城下町として発展していた。両地域はたくさんの坂道でつながっていた。
- ・市街地周辺の地域には扇状地が広がり、田畑に利用されている。
- ・近年、数カ所に工業団地がつくられ、企業の誘致が行われている。

恐竜渓谷ふくい 勝山ジオパーク

ジオパークって何？

ジオパークとは、ヨーロッパで始まった地質遺産（例えば、恐竜の化石が見つかる地層や火山の噴火でできた地形などの地球のダイナミックな活動を教えてくれる遺産）などの保全と活用を図るプログラムです。2004年にヨーロッパと中国が中心となって「世界ジオパークネットワーク」が設立され、2015年にはユネスコ



の正式プログラムとなりました。その目的は国際的に価値のある地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生および持続可能な開発を実現することです。ユネスコ世界ジオパークには2023年5月現在、48カ国、195の地域が認定されています。日本からは10地域（洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸、隠岐、阿蘇、アポイ岳、伊豆半島、白山手取川）が認定されています。

一方で、日本ジオパークは、国内版のジオパークですが、ユネスコ世界ジオパークと同じ理念の元、活動をしています。2023年5月現在、46地域が日本ジオパーク認定されています。ジオパークは、4年に一度の再認定審査があり、活動の質を保ち、さらに向上させていくことが求められます。

参考ホームページ

- ・ [世界ジオパークネットワーク（英語）](#)
- ・ [日本ジオパークネットワーク](#)

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク



勝山市全域をエリアとする恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、2009年に認定されました。「恐竜はどこにいたのか？大地が動き大陸から勝山へ」をメインテーマとし、その大地には、恐竜が暮らした大陸の時代から日本海が形成され現在に至るまでのダイナミックな地球の歴史が記録されています。このメインテーマのもとに、「恐竜・恐竜化石」、「火山と火山活動」、「九頭竜川などの河川とその地形」という3つのサブテーマを設けています。

現在、恐竜化石の産出で有名な勝山ですが、平



写真①
恐竜化石発掘地（北谷町杉山）

成元年（1989）からの北谷町杉山において、福井県により本格的な発掘調査が始められました（写真①）。第1次～第4次調査が続けられていて、次々と恐竜などの化石が発見されています。これまでに6種類（化石鳥類を含む）の新種の恐竜がこの発掘現場から発見されています（日本全体でも10種のみ）。この恐竜化石の見つかる地層（手取層群北谷層）は、約1億2000万年前（白亜紀前期）の地層です。このころは、まだ日本列島は存在せず、大陸の一部でした。大陸を流れていた河川によって周辺でくらしていた恐竜が土砂に埋まり、地層となったものです。

その大陸でできた地層がどのように今の勝山までやってきたのでしょうか。それを引き起こしたのは、今から約2000万年前からユーラシア大陸の東の縁で起こった大地の大変動です。大地がさけたのです。さけた大地は約1200万年前に現在の日本列島の位置まで至ったと考えられています。このように、勝山で見つかる恐竜は現在の勝山で暮らしたわけではなく、日本列島ができるときに地層に埋まった化石として運ばれてきたのです。

ユーラシア大陸の東のへりでは、海のプレートが大陸のプレートの下に沈み込んでいます。現在もそうですが、このような場所では活発な火山活動が見られます。勝山においても、白亜紀後期（恐竜時代終わり）、新第三紀（日本海の形成時）、第四紀（勝山の北部から東部の山）の火山活動の痕跡を地層（一部は地形）として見ることができます（写真②）。これらの火山活動にともなう堆積物によって手取層群は覆い隠されました。このままでは、手取層群は厚い火山の地層に覆われたままです。恐竜化石の発見に最後に大きな役割をはたしたのが河川です。ジオパークのエリア内の手取層群は、九頭竜川の支流の谷に沿って露出しています。つまり河川の浸食が、火山性の堆積物を浸食



写真②
大矢谷白山神社の巨大岩塊
（経ヶ岳火山の痕跡）



写真③
越前甲から見た勝山の平野部

し、手取層群をはじめて地表に露出させたのです。現在、恐竜の町勝山といわれるようになった背景には、以上のような大地の活動があったのです。

その後も大地は活動を続けます。山間部で大地を侵食した河川は、流れの弱くなる平野に至ると土砂を堆積します。これを繰り返すことによってできたのが勝山の平野なのです（写真③）。河岸段丘を利用した村が町へ、そして江戸時代には城下町へと発展していきます。そこには勝山独特の文化がはぐくまれ、地形と気候にそくした産業が生み出されました。タバコ産業、繊維産業が盛んとなり人々の暮らしをささえ、近代勝山の土台が築かれました。

一方で、地球は時々人間にきばをむくときがあります。特に日本列島は、世界的に見ると温暖で湿潤な気候であるため、毎年たくさんの雨が降ります。それに伴い、河川の氾濫や土砂災害が毎年はんらんのように起こります。また、4枚のプレートの境界に位置している日本は、世界の火山・地震大国でもあります。そのため、日本ではこれまでに多くの自然災害が起こっています。勝山でも大雨や土石流、河川の氾濫、大雪といった自然災害を経験しています。自然の恩恵を受けながら、自然災害にあらがいながら、さらに地球環境を守りながら生きていくためには、常に考え続けることが求められています。

皆さんのくらす勝山にはこのようなダイナミックな地球の活動の痕跡こんせきが隠れています。またこれらの活動は、現在の生態系や人々の文化にも大きな影響を与えています。ぜひさまざまなところに出かけて、大地と自然と人のつながりを学んでみてください。さらに、自分たちの地域を知った上で、他のジオパークを訪れ、自分たちの地域との共通点や違いを知ることで、世界の多様性を感じてください。

2

調査テーマを決めて、見通しを立てよう

▲ 調査をするときのテーマの決め方を考えてみましょう。

調べてみたいことを探す

よしきさんたちは、地形図で勝山市の様子を見た後、自分がくらしている地域で、他の地域にないと思われるところや、興味や関心のあるところ、疑問があるところなどについて、みんなでお話合ってみました。

そして、出されたことを、次のように分けて書き出してみました。

調べたいこと

- 勝山の地形や町の様子、町の変化について
 - ・勝山大用水はどこから流れてくるのか。
 - ・変わった地名が多いので、その起源を調べてみたい。
 - ・本町商店街に空き家が見られるが、商店街がこのような状況になった原因について調べてみたい。
 - ・中心街を囲むように大きな道路が整備されているが、道路建設と町の発展の関わりについて調べてみたい。

- 勝山の気候の特色と人々のくらしや産業について
 - ・勝山の特産物について調べてみたい。
 - ・勝山の観光地について調べてみたい。
 - ・勝山の伝統行事とその起源について調べてみたい。
 - ・大雪が降る原因について調べてみたい。

調査テーマを決める

各グループで、実際に調べたいテーマについて、話し合いました。

みんなの興味や関心が高く、手に入りやすい資料がある6つのテーマにしぼり、調べる内容を決めました。

◎各班の調査テーマ

○調べる内容

1班：河川・用水・ため池と私たちの暮らし

・・・つくられた歴史、分布、現在の活用状況

2班：地域の歴史ストーリーとその特色

・・・形成された歴史、発掘調査、発見された資料

3班：勝山の気候と暮らし・・・勝山の1年間の気候、雪との上手な付き合い方

4班：勝山の伝統と観光行事・・・観光地、伝統行事の紹介、勝山の魅力

5班：勝山の特産物・・・種類、分布、農作業暦、工夫と苦労

6班：開発計画と生活の変化・・・勝山の都市計画の歴史

Check Up

調査テーマが決まったら、次のことに注意しながら、調査活動を進めていきましょう。

①テーマに従って、調べる目的と内容をはっきりさせ、調査が終わった後の結果を予想する。

②テーマによって、どのような調査方法が適切かを考えて、計画を立てる。
・文献・資料調査・・・図書館や博物館などで、必要な本や現物資料を見て調べる。

・校外調査・・・校外に出かけて、地形や土地利用、建築物などの観察をし、気がついたことを記録する。
(写真・ビデオ・スケッチ・測定)

・聞き取り調査・・・事前に約束をして、役所や農協、商店、農家などを訪ねて話を聞く。

勝山市の調査

I 多面的に調べよう

1 用水・ため池と わたしたちの 暮らし

【用水】

農業用水は様々な役割をになっています。米や野菜を育てるためだけでなく、魚などの生き物の住みかにもなっています。防火や消雪などとしても活用され、又町並み景観の形成にも大きな役割を果たしています。

勝山大用水

<歴史>

江戸時代の用水について記した史料によると、大用水は17世紀初めころにはほぼ出来ていたようです。旧勝山町や猪野瀬村には女神川のほかに小さな川ばかりで、農業用水に恵まれていませんでした。そのため九頭竜川沿いの大渡村（平泉寺町）から取水し、完成したのが大用水、後の勝山大用水です。大用水は立合用水とも呼ばれたように勝山町と6か村が共同利用し管理した用水です。

享保6年（1721）の大洪水の後、用水を維持するための材料や修復費用・人夫の割り当てなどを、先の村々の間で取り決めた契約書が作られました。領地の違いもあって度々の洪水のたびに、修復費用をめぐる村々で対立がありました。しかし近代に入ると新しい取決めが交わされました。昭和32年（1957）には勝山市の北東側にも新たな水路が引かれ、従来の旧用水に対し新用水と称されています。

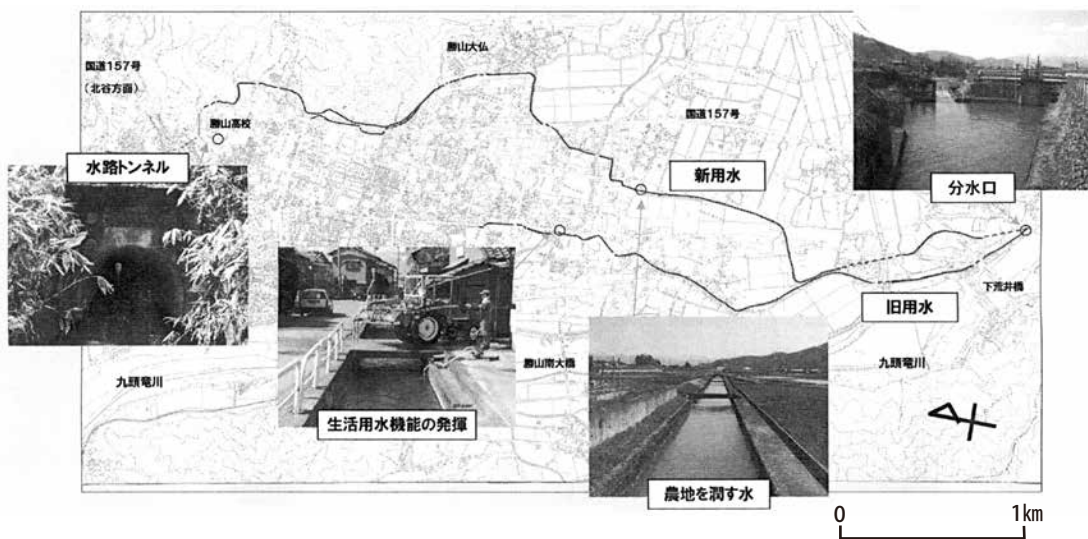
<役割>

大用水はかんがいとしてだけではなく、生活用水としてあるいは勝山城の堀の水としても利用されていました。用水は勝山城下にも取り込まれていて、七里壁の崖上の武士の居住区にも流れていました。また、崖下の町民が住む郡町・袋田町・後町の三町にも用水が巡り、崖下から湧き出た清水も集めて用水網がはり巡っていました。火災の

多い城下町では防火のために、雪の時期には雪を流すために利用されていました。諸番と言っておりいろいろな役目を果たすなかに用水（水道）番も設けられていて、管理の行き届いた用水は、町の人々の生活に潤いを与えてきたと言えます。

<管理状況>

享保の頃は、関係の村々が共同で用水を維持していました。年間約1,000人が携わったといわれています。現在は、営農と地域環境のための重要な用水として、勝山市が維持管理を行っています。



○やってみよう

- ・上の地図を見て用水のおおよその長さを測ってみよう
- ・近くに行って写真を撮ってみよう
- ・近くの人にインタビューをして、いろいろなことを聞いてみよう
- ・文献から用水の歴史をまとめてみよう

【ため池】

ため池は主に農業（かんがい）用水を確保するために水を貯え、取水設備を備えた人工の池のことです。その目的のために新設したり、天然の池沼を改築したりしてできた池を指します。

あかおおつつみ

赤尾大堤（全国ため池100選になっています）

<所在地>

勝山市平泉寺町赤尾

<特徴>

旧平泉寺村の中南部に位置する赤尾大堤は、貯水量2.8万 m^3 のため池です。起源ははっきりしませんが19世紀の初め頃に築造されたと伝えられています。現在でも水源に乏しいこの地域の貴重なみずがめとして水田を潤しています。大堤は、里山に囲まれた水田とともに生物にとって良好な水辺環境を形成しており、水生昆虫が多く生息しています。この地域一帯のため池群には、貴重種も数多く確認されており、福井県が出版する「守り伝えたい福井の里地里山」の中でも、保全すべき地域の一つに位置づけられています。



○やってみよう

- ・地図の中からため池をチェックして水色でぬってみよう
- ・赤尾大堤の周囲の長さを地図からもとめてみよう
- ・近くに住む方々に電話連絡をして聞き取り調査をしてみよう
- ・文献から歴史をまとめてみよう

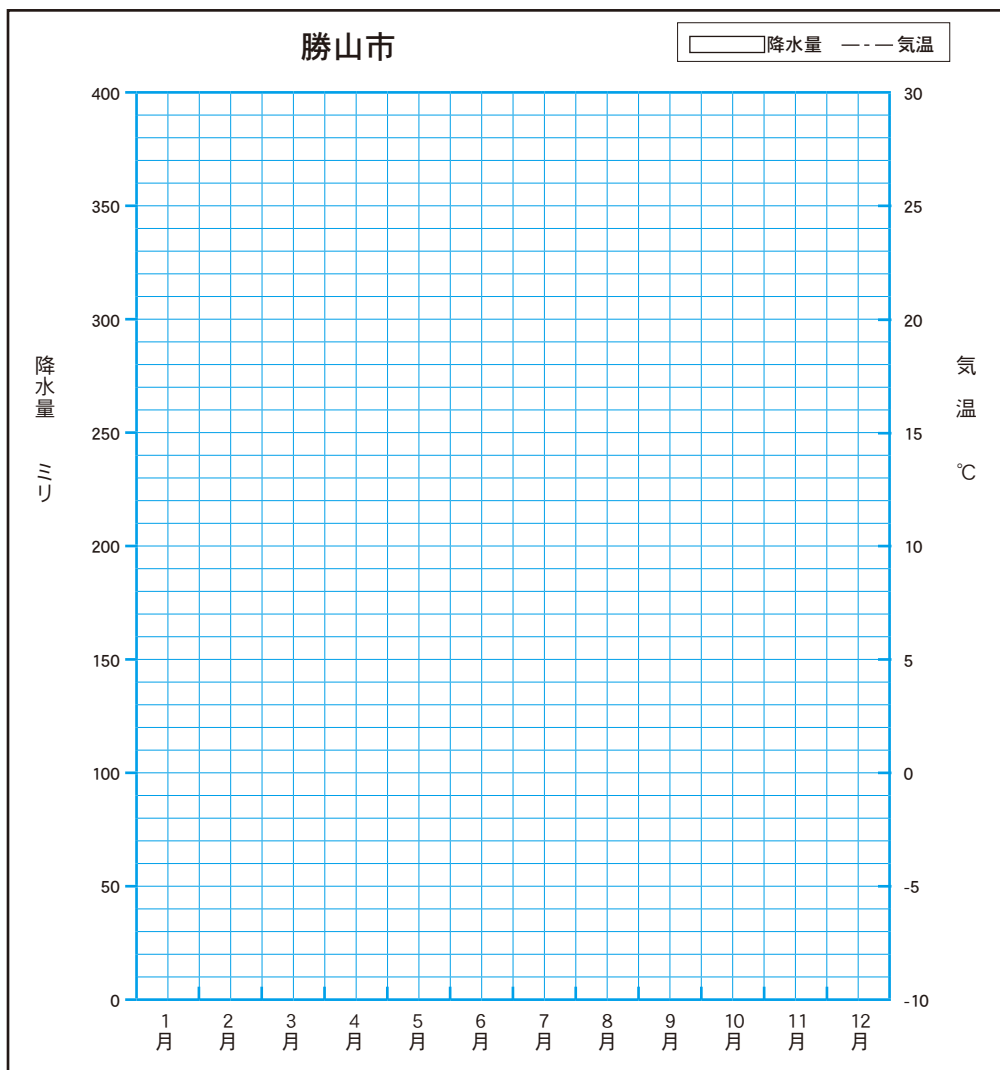
2 勝山の気候とくらし

勝山の気候とグラフ

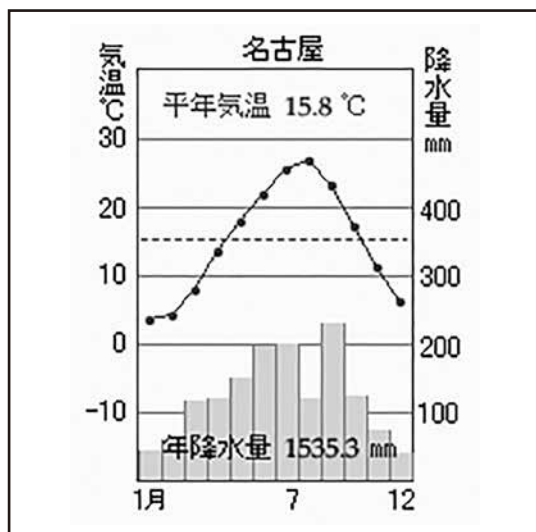
勝山市は日本海側に位置し、冬は北西の季節風によって多く雪が降ります。勝山市の気温と降水量をグラフに記入し、同じ中部地方の愛知県名古屋市、福井県福井市のグラフと比べてみましょう。

勝山市の年間平均気温と降水量（1996～2015年の平均）「気象庁データより」

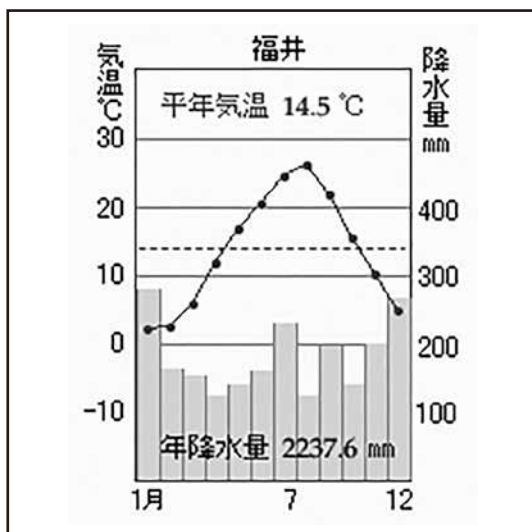
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
平均気温 (°C)	0.9	1.5	5.1	11.3	16.9	21.0	24.6	25.7	21.8	17.4	10.7	4.1	年平均気温 (°C)	13.2
降水量 (mm)	240.7	146.9	176.4	157.1	178.6	202.3	313.6	228.6	205.0	164.4	200.1	282.6	年降水量 (mm)	2246.9



【愛知県名古屋市の雨温図（太平洋側）】



【福井市の雨温図】



観光客で賑わうスキージャム勝山



鯖の熟れ鮓し (北谷地区)

雪とともにくらす

勝山市の気候は、一年を通じて雨量が多く、特に冬の降水量（降雪量）が多いことが特徴です。雪とともにくらすための知恵が根付いており、雪を生かした観光、作物作りが行われています。スキージャム勝山のゲレンデは、シーズンになると多くのスキーヤーやスノーボーダーが訪れ観光地として賑わいを見せます。さらに、白山山系からの雪解け水を利用して勝山水菜の栽培、清酒造り等が行われ、町の特産品にもなっています。

また、生活の知恵として作られてきた伝統料理もあります。北谷地区では、雪に埋もれてしまう時期に備えて、年の瀬に鯖の熟れ鮓しなべしを作ってきました。保存食として、貴重なたんぱく源おほを取るために工夫された知恵といえるでしょう。

一方で、降り積もる雪によって家屋の屋根に負担がかかったり、道路が雪に覆われることによって、交通事故の件数が多くなったりしています。そこで、雪道でのスリップや転倒事故が起らないように、道路の融雪や、早朝の除雪作業が行われています。私たちの通学路の除雪も行われ、安心して通学



除雪作業の様子

することができます。

住居が雪の重みで倒壊しないよう、勝山市では屋根融雪設備を設置するための補助金の交付を行い、雪の多い時期に備えています。

○やってみよう

- ・勝山市の気候を、福井市や名古屋市と比べて特徴をまとめよう
- ・雪とともに生活するための知恵を、お年寄りの方にインタビューしてみよう
- ・38豪雪、56豪雪の頃の様子を調べてみよう
- ・他にも雪を利用した特産物や観光地を探してみよう

3

勝山の伝統行事と 観光



七里壁 (本町)



左義長の櫓



絵行灯

城下町勝山

【勝山城跡】

元禄4年(1691)に小笠原氏が勝山に入部し、宝永6年(1709)に旧城を再建する名目で築城の許可が出されました。その後、断続的に工事が進められましたが、文政8年(1825)に火災にあい完成を見ることなく、明治に入り廃城となりました。現在の市民会館付近が本丸跡といわれています。

【七里壁^{しちりかべ}】 市指定文化財

中心市街地は九頭竜川右岸の、いく段かから成る河岸段丘上に立地しています。江戸時代には岸ノ下・岸ノ上と言われた段丘崖(いわゆる七里壁)を境に、居住区の住み分けがなされていました。段丘崖上には武家が、その下には町人が居住し、いく本もの坂道で結ばれていました。七里壁には時代とともに石垣が築かれるようになり、その主要部分は市の指定文化財になっています。

勝山左義長 県指定文化財

【勝山左義長の歴史と特色】

勝山左義長の起源はあきらかではありませんが、小笠原氏が入部する以前から、勝山三町の祭礼行事として行われてきました。商売繁盛や五穀豊穡^{しず}などを願い、後には度々起こる城下の火災を鎮める、鎮火祭としての色合いが濃くなりました。

左義長は全国的に見られ「ドンド焼」がよく知られています。勝山左義長の特色としては「作り物」「絵行灯」「短冊」「櫓」「太鼓」などがあります。失われたものもありますが、近代に入り取り入れられたのが、三味線・笛・太鼓^{しよ}・鉦^{しよ}の軽快なリズムと「お囃し」にあわせて、赤い長襦袢^{じゅばん}で女装した男



作り物



ドンド焼き



旧木下家住宅



家普請一切附立帳



滝波のお面さん

性が櫓の上で打つ太鼓です。全国的に見ても非常に特色のある伝統行事と言えます。

左義長の最後をかざるのは、雪が残る九頭竜川河畔で行われる「ドンド焼」です。各家から松飾りや注連縄しめなわが持ちこまれ、松と竹で作られた各区のご神体に一齐に点火されます。かつては村部でも行われ、子供が「ドンド焼」の主役でした。その際、「はやせはやせ…」などと囃子言葉ではやされました。この火で焼いた餅を食べると無病息災になると言われています。最近「奥越に春を呼ぶ」祭礼として紹介され、全国に知られるようになりました。

旧木下家住宅と普請帳 国重要文化財

この住宅は、勝山市の北西部にあたる北郷町伊知地（上野）区にあります。江戸時代後期の庄屋の建物で、入母屋造りの茅葺きです。建てられてから大きな増改築がなく、建てられた当初の場所に今も建っています。しかも高度の建築技術をもった永平寺大工が関わっていたことを示す史料（普請帳）も残されています。建物は今から300年程前の天保2年（1831）頃から工事が始まり、同10年頃に完成したと考えられます。こうした点が評価され国の重要文化財に指定されました。

勝山市の主な年中行事

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1月最終日曜日 | 年の市（本町通） |
| 2月11日 | 滝波のお面さん祭り
（村岡町滝波区） |
| 16日 | 谷のお面さん祭り（北谷町谷区） |
| 2月20日 | 観音さまのおすすめ
（遅羽町北山区） |



走りやんこ

- 2月最終土・日曜日 勝山左義長（本町を中心に）
 4月13日 走りやんこ
 （本町を出発しゴールは長山公園）
 7月27・28日 大清水祭り（下後区）
 8月13日 大師山たいまつ登山
 （猪野瀬地区）
 8月15日 谷のはやし込み（北谷町谷区）
 8月16日 かち山ちようちん登山
 （村岡地区）
 8月23・24日 顕如講（さん）（後町 尊光寺）
 9月17～19日 神明祭り
 （本町通 勝山神明神社）
 10月25日 畑時能公例祭（北郷町伊知地区）

勝山市の自然をいかした風景

おおしよず 【大清水（本町）】

かつての市街地にはたくさんの清水が湧き出し、生活用水として利用され人々が集う場でもありました。現在はほとんど姿を消し、大清水のみ今もその名残を伝えています。明治28年（1895）に、「十人組」と呼ばれた後町の有力者が世話人となり、不動明王が祀^{まつ}られました。近年、「まちなか整備事業」によって、「大清水」とその周辺が市民の憩いの場として生まれ変わりました。

【取立山付近のミズバショウ群生地】

霊峰白山が眼前にひらける、加越国境付近には、1300m～1600m級の山岳があり、中でも取立山頂付近の取立平には美しいミズバショウが群生し、多くの登山客が訪れる人気コースとなっています。



大清水



群生するミズバショウ



福井県立恐竜博物館
(村岡町)

恐竜博物館について

恐竜博物館も、勝山市の観光地の1つです。勝山市は恐竜の化石発掘で、日本有数の場所です。主に北谷町で恐竜の化石発掘が行われており、フクイラプトル、フクイサウルスをはじめとする恐竜の化石が発掘されています。発掘地と化石は、国の天然記念物に指定されています。

【恐竜博物館の紹介】

恐竜博物館は約4,500㎡という広大な展示室に、40体の恐竜全身骨格をはじめ1,500点以上の標本、ジオラマなどが展示されており、自然系博物館としては全国トップクラスの年間90万人以上の来館者があります。この博物館がある「かつやま恐竜の森」内に「どきどき恐竜発掘ランド」があり、年間2万人以上の子どもたちが化石発掘体験に参加しています。

また、勝山市北谷町にある恐竜化石発掘地では、約1億2千万年前の白亜紀前期はくあきの地層が実際に見られます。この恐竜化石発掘地を基点とする遊歩道も整備されています。

○やってみよう

- ・身近なところにある歴史的な遺跡を探してみよう
- ・勝山左義長のおこりを文献で調べたり、実際に体験したりしてみよう
- ・自然をいかした風景や観光地が他にないか調べてみよう

4 勝山の特産物



さといも



華ロケット



若猪野メロン

農業

勝山の農業は、山間畑作が早くから発達し、中世以後稲作をはじめ様々な作物の生産が行われていたと考えられます。江戸時代には葉たばこ産地も形成されました。現在、農産物では、良質米（コシヒカリ）やさといも、そば、メロン、勝山水菜などの特産品の生産が盛んです。今後の方針として農地の集団化や流動化、農作業の共同化を図り、効率的な農業経営をめざしています。

【大仏さといも】

さといもは近代に入り、明治時代からふるさとの特産品として生産されるようになりました。勝山市は、四方が山々に囲まれた典型的な盆地で、この昼夜の気温較差が品質のよいさといも作りの要因となっています。食味は独特で、肉質のしまりもよく、煮くずれしません。皮は柔らかく、甘みがあって味がよく、高い評価を受けています。

【ミディトマト】

勝山だけで栽培されるミディトマト「華ロケット」や、県の特産品にもなっている「越のルビー」は、ピンポン玉より少し大きく、輝くような鮮やかな紅色が特徴です。皮が柔らかいのでヘタが取りやすく、酸味が控えめのあっさり味のため、フルーツ感覚で食することができます。日中気温が高く、夜は冷え込む勝山盆地の気候は、果実の糖度を上げる条件に適しており、高い評価を集めています。

【若猪野メロン】

マスクメロンは、昼夜の気温較差が大きいことと、恵まれた土質など気候風土を最大限に利用して作られます。糖度も15度以上と安定し、市場からも高い

評価を受けています。食べごろは、メロンの下部がやや柔らかく感じられ、メロン特有の香りが漂うころです。

贈答・進物品としてもたいへん好評です。

【勝山水菜】

勝山水菜は晩秋に種を蒔き、越冬させて早春に収穫するので、ほとんど無農薬で栽培されています。早春の生鮮野菜として珍重され、みずみずしくて柔らかく、新鮮でほのかに甘い味があります。おひたし、お茶漬け、菜めしなどに料理され、おいしく食べられています。

また、近年、県衛生研究所の調査によって次のようなことが分かりました。勝山水菜には、がんなど生活習慣病の予防に効果があり、今注目を集めている抗酸化物質が、非常に良好な状態で含まれている。現在、健康食品としても注目を集めています。



勝山水菜の収穫

【越前かつやまそば】

勝山盆地で育まれたかつやまそばは、四季を通じて市内のそば屋や食堂などで味わうことができます。色が黒くコシのしっかりしたこのそばを噛みしめると、そば本来の味がにじみ出てきます。



そばの風景



林業



繊維産業



製造業

林業

勝山は、緑豊かな自然環境の中にあり、豊富な人工林に恵まれています。地域の山林資源の活用と健全な山林育成のサイクルを促すため、国産材加工施設を設立しました。また、製材工場の新設、効率的な生産体制の確立による地域材の利用拡大、林業の活性化による豊かな山村づくりを進めています。

勝山を支える産業

【繊維産業】

明治期に興った製糸業と機業は、勝山の中心産業でした。昭和初期に全盛だった人絹織物じんけんに続いて、昭和40年（1965）代からは合成繊維織物の生産が盛んになり、産業の屋台骨やたいぼねとして隆盛を誇っていました。市内には今も古い繊維工場群のほか、産業の歴史を知る上で貴重な資料が残っています。

近年では、高機能繊維や非衣料分野の繊維製品をつくるなど、繊維産地勝山を強力にアピールし、イメージアップに努めています。

【製造業】

近年勝山市に進出した会社ではプレス加工品やマグネット部品、スポット溶接、金属表面処理など、おもに自動車に使われる部品をつくっています。

また、市内に拠点を置く製薬会社では、より有効で安全性の高い新薬、自社オリジナルの新薬の探索・研究を推進しています。また、ユーザーに高度できめ細やかな情報を提供し、情報の質・量を高め、全国の情報活動ネットワークの整備を推進しています。

【その他】

近年、海外製品の輸入や若者の流出など様々な問



勝山市市民交流センター

題がおこっています。そこで、勝山に元気な産業を再び取り戻そうと、特産品の開発やブランド化、ベンチャービジネスや企業誘致の推進など、様々な施策が展開されています。

勝山市市民交流センター（旧奥越地域地場産業振興センター）は、市民活動センター、地域子育て支援センター、インキュベート施設等で構成されています。

これらの施設はボランティアや社会貢献活動、地域の子育て支援の拠点としての機能をもっています。また市内で創業しようとする人や、創業間もない起業家への活動拠点としての支援・育成も行っています。そして、ふるさとルネッサンス事業による幅広い交流を進める中でビジネスチャンスの拡大を図るなど、産業の振興に努めています。

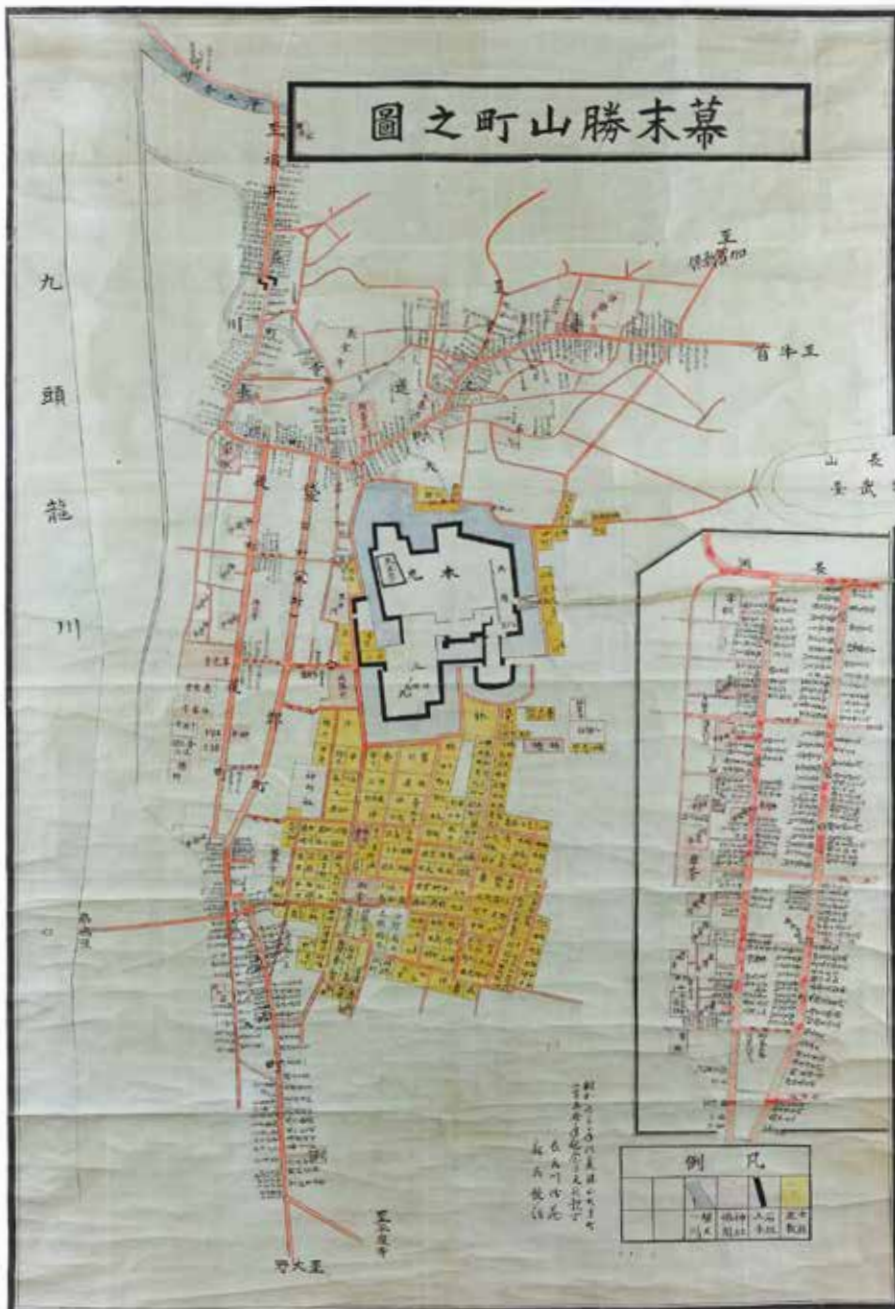
○やってみよう

- ・農業の特産物の一つ取り上げて、栽培の仕方や苦労・工夫を調べてみよう
- ・勝山市内のどこで農業の特産物が作られているかを調べてみよう
- ・繊維産業の発達の歴史を調べてみよう
- ・家族や近所の方々に勝山の産業についてインタビューしてみよう

いろいろな時代の地図

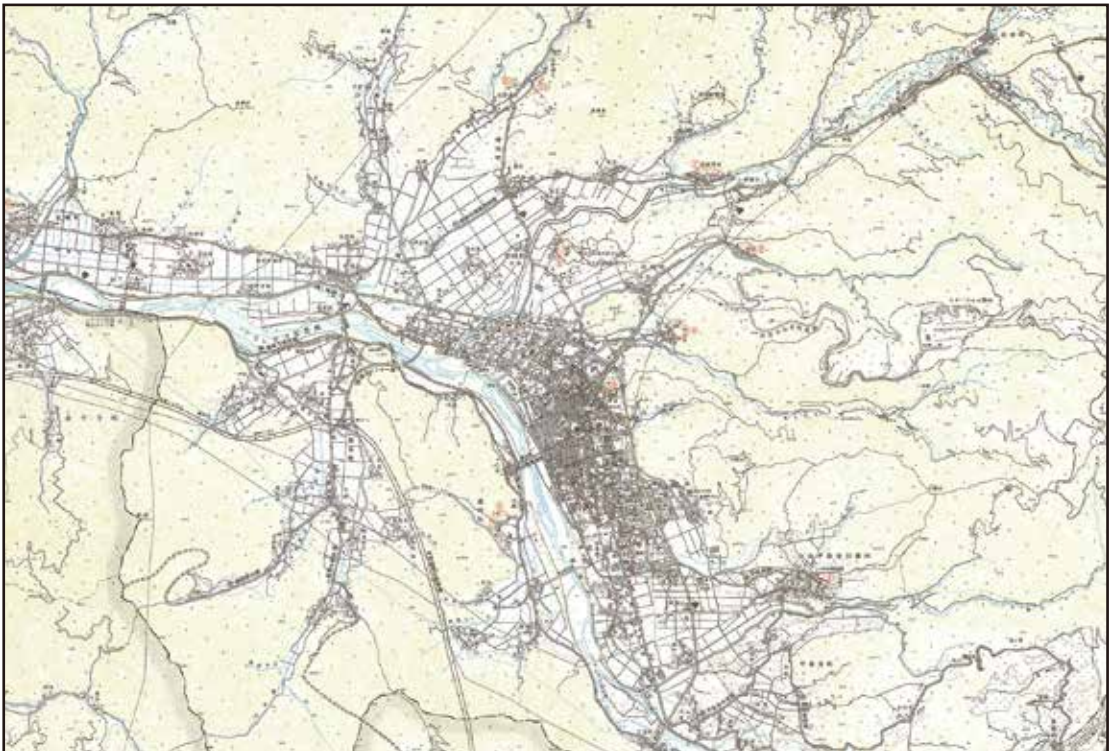
勝山は歴史とともに変化してきました。いろいろな時代の地図を見て気がついたことを発表してみよう。(町の発展の様子、道路、建物の変化など)

勝山市の町のひろがり



幕末勝山町之図

昭和33年(1958)の勝山 (1:10,000)



現在の勝山市域

II 調べるときに参考にしてみよう

1 全国から見た福井県のことを調べるなら

○地図帳 ○データで見る県勢（矢野恒太郎記念会） ○日本国勢図会（国勢社）

2 福井県のことを知りたいと思ったら

○県勢要覧（福井県） ○福井統計年鑑（福井県）
*基本統計…各市役所・各町役場の企画課や庶務課など
*都市計画について…各市役所・各町役場の都市計画課など
*地域新聞や情報誌…『福井県史』 各市町村史 広報勝山

3 役に立つインターネットホームページ

○福井県のホームページ <http://www.pref.fukui.jp/>
○福井県統計情報システム <http://toukei.pref.fukui.jp/>
*統計関係リンク
官庁→総務省→なるほどデータforきつず→おやくだちデータ倉庫→
きみの住んでいる県はどんな県（<http://www.stat.go.jp/kids/datastore/pref/index.htm>）
○福井新聞社 <http://www.fukuishimbun.co.jp/>
○日刊県民福井 <http://www.kenmin-fukui.co.jp/>
○福井テレビ <http://www.fukui-tv.co.jp/>
○福井放送 <http://www.fbc.ne.jp/>
○NHK福井 <http://www.nhk.or.jp/fukui/>

4 博物館などで資料を得るなら

福井県立歴史博物館 福井市大宮 2-19-15 0776-22-4675	福井県の民俗、歴史、考古、産業の歴史を展示。
福井県立美術館 福井市文京 3-16-1 0776-25-0452	福井ゆかりの作家の作品を中心に企画やテーマ展示などを開催。県民が美術に親しむことができる普及事業などを実施。
福井県立こども歴史文化館 福井市城東1丁目 18-21 0776-21-1500	福井県の先人や、ゆかりの人物について展示、解説
福井県立恐竜博物館 勝山市村岡町寺尾 51-11 0779-88-0001	恐竜を中心とする古生物および地質時代の地球の歴史に関する資料の収集や保管、展示などを行う。
福井県教育庁 埋蔵文化財調査センター 福井市大畑町 97-21-3 0776-53-7977	県内の埋蔵文化財の調査・研究を行い、発掘調査から当時の生活や文化について現地説明会や出前授業を行う。
福井市自然史博物館 福井市足羽上町 147 0776-35-2844	福井の自然に関する資料が集結している。

福井県立一乗谷 朝倉氏遺跡博物館 福井市安波賀町 4-10 0776-41-2301	陶磁器をはじめとする発掘調査での出土品や、戦国時代の生活道具などを展示。
福井市立郷土歴史博物館 福井市宝永 3-12-1 0776-21-0489	橋本左内の直筆書簡など豊富な資料を展示し、古代から近世にいたる福井市の歴史を紹介している。
福井市美術館 福井市下馬 3 丁目 1111 0776-33-2990	福井市内の作家作品を中心に収集、展示を行う。
一乗谷朝倉氏遺跡復原町並 福井市城戸ノ内町 0776-41-2330	朝倉氏遺跡で発見された礎石や出土品に、歴史的考察を加えて、当時の町並みを原寸大で再現した施設。
おさごえ民家園 福井市月見 5-4-48 0776-34-3794	県内の文化的価値の高い6つの古民家を、移築・復元し展示している。
福井市愛宕坂茶道美術館 福井市足羽 1-8-5 0776-33-3933	朝倉氏遺跡から発掘された茶壺や茶碗、福井松平家に伝わる茶道に関する資料などを公開。3階の映像ロビーでは、茶道の歴史を分かりやすく紹介している。
藤野巖九郎記念館 あわら市温泉 1 丁目 203 0776-77-1030	魯迅と師弟関係にあった藤野の旧家を移築して公開している。併設の資料館には、白衣や聴診器などの医療器具の遺品、魯迅直筆の書簡などを展示している。
吉崎蓮如上人記念館 あわら市吉崎 1 丁目 0776-75-2200	吉崎の七不思議(「嫁着しの面」、「吉崎こなご」など)をはじめ、蓮如上人と吉崎に関わるものを展示、解説している。
金津創作の森美術館 あわら市宮谷 57-2-19 0776-73-7800	現代美術を中心に活動の支援・育成をおこなっているアート体験型美術館で、伝統工芸や地域にゆかりある作家の資料収集なども行う。
千古の家 坂井市丸岡町上竹田 30-11 0776-67-2111	軒の低い茅葺き屋根の民家(国の重要文化財)。室町～江戸初期に建築されたと推定され、源頼政の子孫の坪川家の住居だった。
坂井市龍翔博物館 坂井市三国町緑ヶ丘 4-2-1 0776-82-5666	三国町にゆかりのある文学や絵画の展示、町の自然やくらしぶりを紹介する。また、復元された北前船も展示している。
はたや記念館 ゆめおーれ勝山 勝山市昭和町 1 丁目 7-40 0779-87-1200	1905年から1998年まで機業場だった建物を保存・活用した施設。建物は勝山市有形文化財、国の近代化産業遺産に認定されている。動態展示や体験コーナーがあり、大人から子どもまで楽しめる織物ミュージアム。
白山平泉寺歴史探遊館 まほろば 勝山市平泉寺町 66-2-12 0779-87-6001	史跡白山平泉寺旧境内や白山の歴史・自然・文化に関することを展示紹介する。また、文化財を活かした学習・交流・地域づくりの拠点施設ともなり、体験イベントなどを開催している。

<p>北郷の庄屋屋敷 重要文化財旧木下家住宅 勝山市北郷町伊知地第5号3番地 0779-89-1020</p>	<p>木下家は江戸時代後期に庄屋を務めた上層農家で、この時期に建てられた当初の様子が見られる建物である。勝山市を代表する歴史的建造物で、県内では7棟しかない国の重要文化財に指定された茅葺き民家。</p>
<p>縄文遺跡等資料室 勝山市遅羽大袋第48号42番地 0776-73-7800</p>	<p>「縄文遺跡等資料室」は遅羽まちづくり会館の2階にあり、勝山市内の遺跡から出土した旧石器時代から江戸時代の遺物や遅羽町の農村生活の歴史・民俗を展示。特に、近くにある三室遺跡（県指定史跡）の展示を中心に紹介。</p>
<p>勝山城博物館 勝山市平泉寺町平泉寺 85-26-1 0779-88-6200</p>	<p>今井俊満の屏風絵、戦国武将の鎧・兜、刀剣類を展示。6階部分は、展望台となっている。</p>
<p>大野市民俗資料館 大野市城町 2-13 0779-66-0238</p>	<p>明治22年に建てられた大野治安裁判所を利用。大野市の文化財に指定されている。明治末期から昭和40年代に実際に使用されていた生活用品を展示。</p>
<p>大野市歴史博物館 大野市天神町 2-4 0779-65-5520</p>	<p>大野市の縄文から近代までの歴史資料を収集・保存・展示している。特に、土井家7代藩主・利忠以降の藩政資料が多く、藩船「大野丸」の1/10模型と関係資料も展示。</p>
<p>武家屋敷旧内山家 大野市城町 10-7 0779-65-6122</p>	<p>幕末に、大野藩の財政立て直しや蘭学振興に尽力した家老の内山七郎右衛門良休と弟の隆佐良隆の屋敷を復元したもの。羽織やタンスなどを展示している。</p>
<p>武家屋敷旧田村家 大野市城町 7-12 0779-65-6212</p>	<p>田村又左衛門家屋敷は、近世の武家住宅であり、大野藩上級武家屋敷の様子が見られることから大野市の指定文化財となっている。また、住宅東側に広がる庭園の築山は、越前大野城外堀の土居を転用したもの。</p>
<p>和泉郷土資料館 大野市朝日 25-7 0779-78-2845</p>	<p>大野市和泉地区で発見された古生代や中生代の化石などを展示し、“化石の宝庫、和泉”の魅力や最新の研究成果について紹介。</p>
<p>笛資料館 大野市朝日 24-9 0779-78-2041</p>	<p>平安末期、戦いに敗れた源義平は、朝日の里に落ち延び、里の娘「おみつ」とくらししていたが京へ上ることを決意した義平は、おみつに一本の横笛を遺したという。当館には、その笛のレプリカをはじめ、数多くの笛を紹介。</p>
<p>鯖江市まなべの館 鯖江市長泉寺町 1-9-20 0778-53-2257</p>	<p>市内の古墳からの出土品や、鯖江藩に関する資料を展示している。</p>
<p>うるしの里会館 (鯖江市越前漆器伝統産業会館) 鯖江市西袋町 40-1-2 0778-65-2727</p>	<p>木地から加飾まで漆器の製造工程や歴史的資料等が見学できる。業務用漆器の製造や食器洗浄機対応の漆器など、越前漆器のとりくみについて紹介。</p>
<p>めがねミュージアム 鯖江市新横江 2-3-4 めがね会館 0778-42-8311</p>	<p>日本のめがね作りの拠点、産地ならではの博物館として、100余年前の生産現場風景の展示コーナーや江戸時代～昭和期にかけてのめがねの形の変遷などを展示・紹介。</p>

<p>伊藤柏翠俳句記念館 鯖江市東鯖江 3-5-3 0778-52-8198</p>	<p>日本の伝統俳句「花鳥巡禮」をした伊藤柏翠について、俳句生活74年の貴重な作品などを保存・展示。</p>
<p>武生公会堂記念館 越前市蓬萊町 8-8 0778-21-3900</p>	<p>幕末の頃、府中の藩校「立教館」があった場所に建設された「武生町公会堂」を活用した博物館。特別展や館蔵品展、体験講座や講演会による越前市の歴史文化の紹介や、郷土資料の収集保存活動を行う。</p>
<p>越前和紙の里 紙の文化博物館 越前市新在家町 11-12 0778-42-0016</p>	<p>和紙の発祥や歴史について学ぶことができ、越前和紙や作品も多数展示。</p>
<p>越前和紙の里 卯立の工芸館 越前市新在家町 9-21-2 0778-43-7800</p>	<p>江戸時代中期の紙漉き家屋を移築復元した「卯立の工芸館」では、昔ながらの道具を使って和紙を漉く様子など、和紙が作られる一連の工程を展示・紹介。</p>
<p>「ちひろの生まれた家」 記念館 越前市天王町 4-14 0778-66-7112</p>	<p>いわさきちひろの世界に親しむ記念館で、ちひろの絵本や関連書籍などをはじめ、ちひろの母の文江とちひろの誕生を紹介する。</p>
<p>紫ゆかりの館 越前市東千福町 21-12 0778-43-5013</p>	<p>紫式部が越前たけふの地で過ごしたことを展示。また、越前・丹南地域の伝統的工芸品について、展示や物販を通して紹介するほか、学び・体験なども開催。</p>
<p>越前打刃物会館 越前市池ノ上 49-1-3 0778-24-1200</p>	<p>製品の販売、昔の道具や資料の展示を行っている。包丁や鎌の製造工程のビデオ上映などを行っている。</p>
<p>能面美術館 池田町志津原 17-2 0778-44-7757</p>	<p>能面の170種類のうち、約130種類を展示。隣接する古木庵では、能面の製作現場の見学もできる。</p>
<p>福井県陶芸館・ 越前古窯博物館 越前町小曾原 120-61 0778-32-2174</p>	<p>平安時代末期から、現代までの越前焼・約200点を展示している。陶芸教室もある。</p>
<p>南条ふるさと資料館「国華」 南越前町脇本 17-38-1 (南条保健福祉センター内) 0778-47-3767</p>	<p>旧 国華小学校に関するパネル等の歴史資料を展示するほか、南越前町内で使われた、昔の民具や農具、遺跡で出土した考古資料を展示。</p>
<p>河野歴史文化ふれあい会館 南越前町河野 2-29-1 0778-48-2881</p>	<p>海とともに歩んできた河野地区の歴史を後世に伝えるための資料館。北前船の模型などをはじめ、マンガラ寺遺跡の考古資料を展示。</p>
<p>今庄まちなみ情報館 南越前町今庄 74-3-1 0778-45-0074</p>	<p>JR今庄駅構内にあり、今庄地区の成り立ちを紹介するとともに、鉄道ジオラマと、窓から眺められ現在の鉄道とを見比べることができる。</p>

<p>北前船主の館・右近家 南越前町河野 2-15 0778-48-2196</p>	<p>江戸時代中期から明治30年代にかけて、北前船交易で栄えた右近家の邸宅。遠めがねや和磁石など航海に使われた道具や古文書を展示している。</p>
<p>敦賀市立博物館 敦賀市相生町 7-8 0770-25-7033</p>	<p>敦賀市内で発掘された考古遺物のほか、中世・近世・近代の文書資料、民俗資料、そして近世・近代の美術資料まで、敦賀ゆかりの資料を数多く収集・保存</p>
<p>みなとつるが山車会館 敦賀市相生町 7-6 0770-21-5570</p>	<p>つるがの「山車巡行」は、港町敦賀の繁栄を象徴してきた長い歴史をもつ伝統行事で、氣比神宮例大祭で巡行する勇壮華麗な山車を保管して、これらを展示・紹介。</p>
<p>敦賀鉄道資料館 敦賀市港町 1-25 0770-21-0056</p>	<p>敦賀鉄道資料館（旧敦賀港駅舎）では、敦賀の鉄道の歴史を紹介する資料や列車模型などを展示・紹介。</p>
<p>敦賀郷土博物館 敦賀市三島町 1-3-3 八幡神社内 0770-22-1193</p>	<p>石井左近の収集品。敦賀市周辺の古墳の出土品、江戸時代の日本画、北前船の資料、生活道具など、敦賀ゆかりのものなど約3000点を展示している。</p>
<p>福井県立若狭歴史博物館 小浜市遠敷 2-104 0770-56-0525</p>	<p>「みほとけ」「祭りと芸能」「歴史」の3コーナーからなる。仏像や考古資料など、若狭地方の歴史・民俗の文化遺産を公開している。</p>
<p>小浜町並み保存資料館 小浜市鹿島 29 0770-53-3443</p>	<p>風格のある明治20年代の商家をモデル家屋として、資料を展示している。</p>
<p>小浜市鯖街道ミュージアム 小浜市小浜広峰 17-1 0770-64-6034</p>	<p>日本遺産「鯖街道」をはじめとする小浜市の文化財や伝統芸能、祭礼等を紹介。</p>
<p>御食国若狭おばま食文化館 小浜市川崎 3-4-4 0770-53-1000</p>	<p>「囲みかたらう伝統行事と食」、ユネスコ無形文化遺産の「和食」などの再現料理レプリカとともに紹介して、「すし」のルーツ、日本食の美味しさの秘密を紹介する「世界で愛される日本食の代表『すし』」を始め、多くのテーマを扱った展示</p>
<p>山川登美子記念館 小浜市千種 1-10-7 0770-52-3221</p>	<p>山川登美子の生家と遺品が小浜市に寄付されたことから、山川登美子記念館として開館して、愛用された品や歌稿などを展示。</p>
<p>箸のふるさと館 小浜市福谷 8-1-3 0770-52-1733</p>	<p>所要時間15分で、塗り重ねられた漆を研ぎ、貝殻などがちりばめられた模様づくりを体験できる。</p>
<p>鵜の瀬公園資料館 小浜市下根来 8-1-1 0770-53-1111</p>	<p>「お水送り」という文化遺産を通じて、歴史と自然を同時に体験できる施設。（電話:小浜市役所）</p>
<p>若狭三方縄文博物館 若狭町鳥浜 122-12-1 0770-45-2270</p>	<p>鳥浜貝塚から出土した土器や石器や丸木舟などの資料や、郷土の民具や武具などを展示している。縄文文化をいろいろな角度から考え、体感できる施設。</p>
<p>若狭町歴史文化館 若狭町市場 20-17 0770-62-2711</p>	<p>若狭地方の主要な前方後円墳などの埴輪や、石室から出土した金製耳飾などの考古資料を展示。朝鮮半島からもたらされたものも数多くあり、若狭地方の古墳時代を紹介。</p>

佐久間記念交流会館 若狭町北前川 61-2 0770-45-1780	死の直前まで人事を尽くした、第6号潜水艇艦長、佐久間勉の沈着勇断な行動を顕彰する記念館。
若狭鯖街道 熊川宿資料館 宿場館 若狭町熊川 30-4-2 0770-62-0330	安土桃山時代に宿場町となり、鯖街道の中継地点として栄えた熊川の関連資料や民具を展示している。近くの旧逸見勘兵衛宅は無料で見学できる。(土・日・祝日のみ)
おおい町立郷土史料館 おおい町成和 2-1-1 0770-77-2820	大飯地域を中心に歴史や文化財、各種郷土資料を展示しわかりやすく紹介。
おおい町暦会館 おおい町名田庄納田終 111-7 0770-67-2876	暦に関する資料など約900点を収蔵。江戸時代の木星観測記録、やぐら時計、遠めがねといった天文観測器具などを展示している。
若州一滴文庫 おおい町岡田 33-2-1 0770-77-2445	斉藤真一、渡辺淳など水上文学にゆかりの深い作家の絵画作品のギャラリー展示や、水上の経歴や執筆の参考資料、そして貴重本などを展示。
高浜町漁村文化伝承館 高浜町塩土地係 0770-72-1234	若狭の漁民文化が一目で分かる施設。漁師画家・貝井春治郎氏の作品をはじめ、実際に使われていた丸木舟や網、サメを捕ったモリや漁具、定置網の模型などを展示。
高浜町郷土資料館 高浜町南団地 1-14-1 0770-72-5270	祭りと、民俗・美術工芸・考古・中世の三つをテーマにした展示があり、高浜町の歴史・文化を紹介。

5 図書館で資料を得るなら

- | | | |
|----------|---------------|--------------|
| ○福井県立図書館 | 福井市下馬町 51-11 | 0776-33-8860 |
| ○勝山市立図書館 | 勝山市昭和町 1-7-28 | 0779-88-6000 |

6 その他

- | | | |
|----------|-----------------|--------------|
| ○福井県庁 | 福井市大手 3-17-1 | 0776-21-1111 |
| ○勝山市役所 | 勝山市元町 1-1-1 | 0779-88-1111 |
| ○福井地方裁判所 | 福井市春山 1-1-1 | 0776-22-5000 |
| 大野簡易裁判所 | 大野市城町 1-5 | 0779-66-2120 |
| ○福井地方法務局 | 福井市春山 1-1-54 | 0776-22-5090 |
| ○大野税務署 | 大野市城町 7-28 | 0779-66-2180 |
| ○J A 福井県 | | |
| 勝山南支店 | 勝山市旭毛屋町 111 | 0779-88-0341 |
| 勝山中支店 | 勝山市滝波町 5-701 | 0779-88-0342 |
| 勝山北支店 | 勝山市荒土町伊波 27-8-1 | 0779-89-2003 |

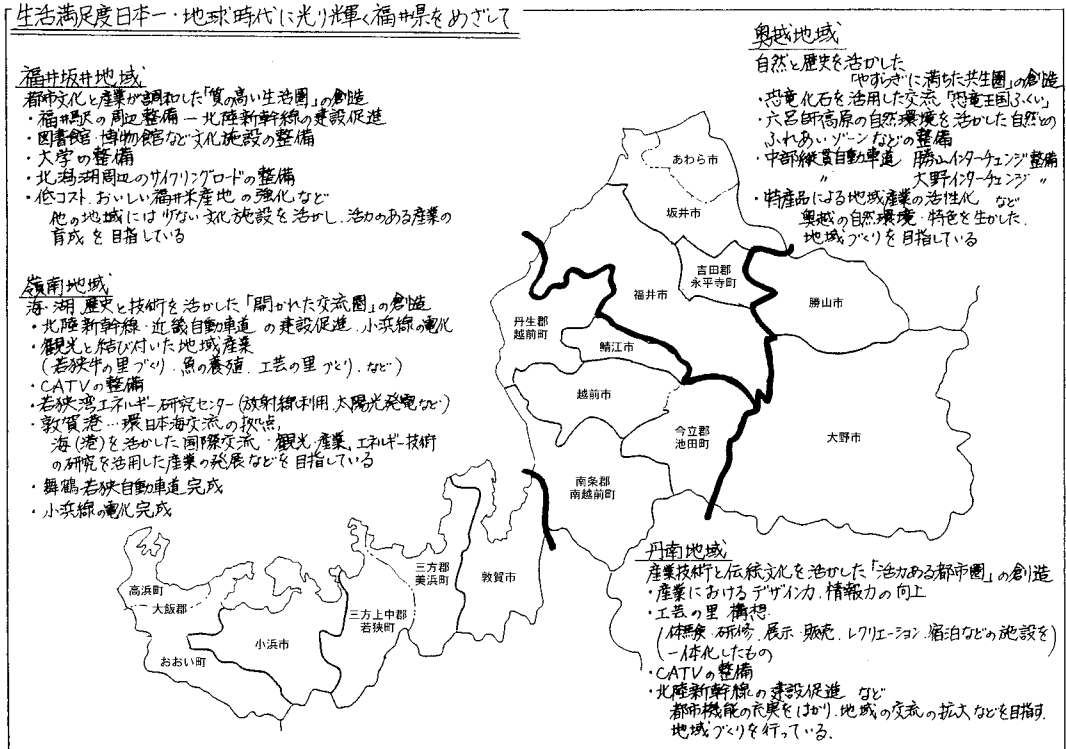
多面的に調べよう ～ 福井県 ～

いろいろなことから調べよう

- 概要 (人口、面積、地域区分など)
- 地形 (気候、山地、川、平野など)
- 歴史 (勝山の原始から近代)
- 土地利用 (市街地、水田、畑地など)
- 農業 (稲作、畑作、畜産、林業など)
- 水産業 (漁の方法、水産物の流通など)
- 伝統産業 (漆器、和紙、めのう、打刃物、越前焼など)
- 近代工業 (めがね、せんい、機械、電力など)
- 地域の変容と結びつき
(中心産業の変化、他の都道府県とのつながり、環日本海構想、国際交流など)
- 未来構想 (都市機能の整備、自然を生かした地域づくり、交通基盤の整備など)

特色を調べ、まとめよう

- 1 全体から見た特色を調べる。
地域ごと(嶺北、嶺南など)に特色を調べる。
- 2 県内の地域的特色の違いや共通点、結びつきをさまざまな調べ方(地図、写真、統計資料・主題図の読みとり、統計資料の比較など)で見つける。
- 3 調べた結果をまとめて(白地図に整理、模式図、絵画、新聞など)、県全体の地域的特色をとらえる。
- 4 県の未来構想を考える。
自分が考える福井県の未来
自分が望む将来の福井県の姿 など



■ 歴史的分野

第 1 章

勝山市域の歴史ストーリー

1

大地形成と 恐竜の時代

勝山市で発見される恐竜化石が眠る地層（手取層群）は、中生代白亜紀前期（1億2,000万年前）に形成されました。この時代には、日本列島はまだアジア大陸の一部でした。その後、約2,000万年前に大陸の東縁部が裂けて、大陸との間に海が入り込み、日本列島が形成されました。このころ、恐竜はすでに地層の中で化石となった状態でした。恐竜化石が勝山で発見されたのは、昭和57年（1982）のことです。北谷町杉山でワニ類の化石が発見されたことをきっかけとして、現在までに6種類の新種を含む恐竜化石(化石鳥類を含む)が見つかっています。北谷地区では手取層群が露出し、恐竜化石以外にも動物・植物等の化石が発見されており、恐竜時代の生態系が明らかになりつつあります。

2

先史 ～川と山の恵み～

「大地形成と恐竜の時代」でも述べてきたように、勝山のこの土地に人々はくらししてきました。現在のところ、勝山での最も古い人類の生活の痕跡は、猪野口南幅遺跡（猪野口地区）から出土した石器です。この石器は1万5千年ほど前の旧石器時代後期のもので、この時期には九頭竜川の形成した河岸段丘上で人びとが暮らしていたことがわかります。

縄文時代の勝山市域には多くの遺跡が見つかっており、福井県内でも屈指の繁栄を誇った地域です。市内には、縄文時代の草創期から晩期までの遺跡があり、その多くは九頭竜川やその支流が形成した河岸段丘上に立地しています。

赤尾池遺跡（平泉寺町）からは草創期の槍先形尖頭器が発見されました。村岡町の長尾山遺跡では多量のガラス質安山岩の石片が出土しており、法恩寺山で産出する石材を使った石器加工場と考えられます。県指定文化財の三室遺跡（遅羽町）からは、中期の竪穴住居や後期の配石遺構が発掘され、県内を代表する縄文遺跡です。上野遺跡（北郷町）、大島田遺跡（猪野口地区）などは、晩期の代表的な遺跡です。これらの遺跡から出土した土器は、北陸地方のみならず中部高地、太平洋側の瀬戸内、関西、東海地方との交流を推測させます。

弥生から古墳時代の集落の多くは、水田に適した低湿地に接する自然堤防や、山裾すそに多く立地しています。しかし、勝山市域ではこのような場所が少ないことから、ムラの形成も少なく、その結果、遺跡数は減少すると考えられています。そのような中でも、鹿谷町の本郷北遺跡や袋田遺跡などでは古墳時代初期の竪穴住居跡が見つかり、大渡城山古墳（平泉寺町）は4世紀後半につくられた方墳であることがわかりました。近年、三谷遺跡（勝山地区）からは、銅鐸をイメージして土で作られた銅鐸型土製品が見つかり、当市にも銅鐸文化の影響があったことがわかってきました。

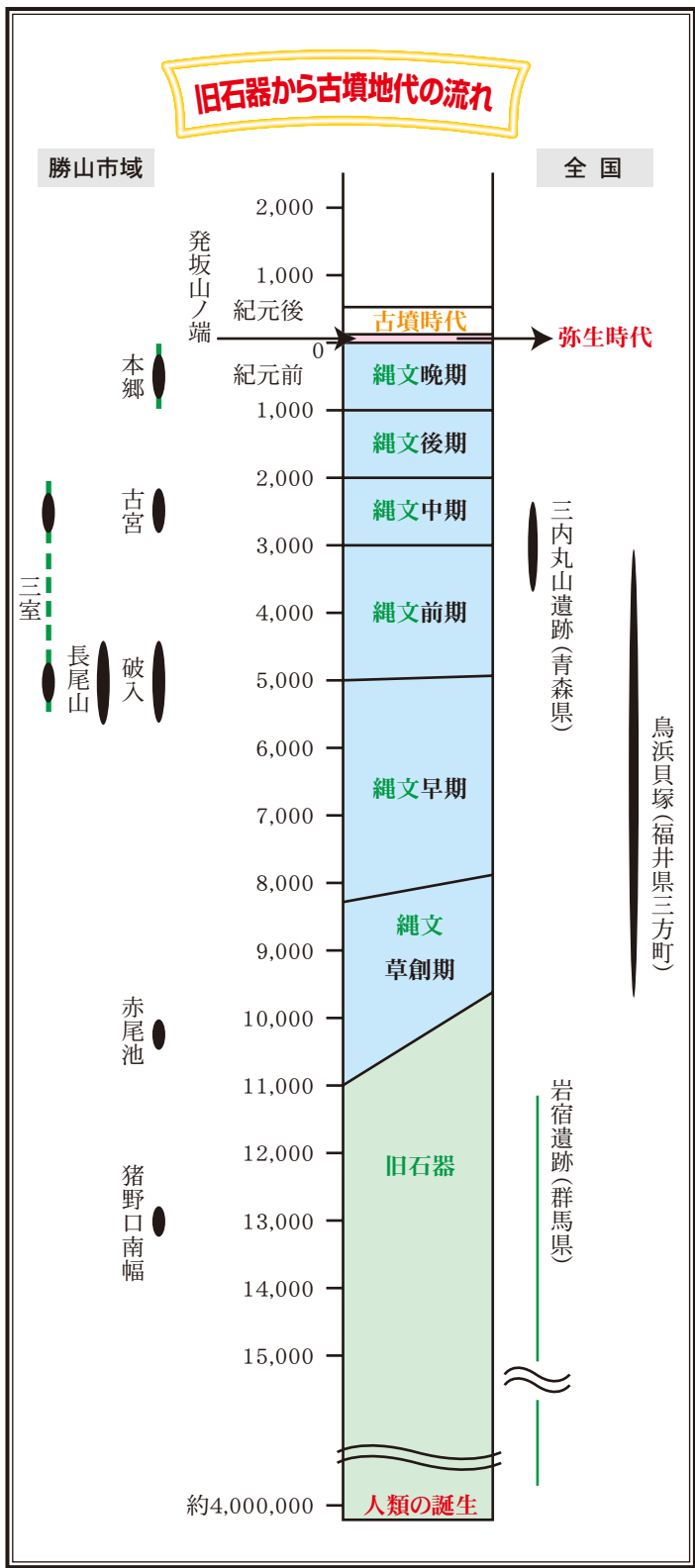
◆◆◆ 歴史にチャレンジ ◆◆◆

● 縄文遺跡と弥生遺跡を比べてみよう。
 ・人が住んでいる場所
 ・生活の様子
 ・土器のちがいを

● 福井県にある前方後円墳を調べてみよう。

● 勝山に大きな前方後円墳が
 つくられなかったのはどう
 してなのか考えてみよう。

やってみよう！



3 古代

～毛屋郷の開発と 平泉寺のはじまり～

奈良時代から平安時代の勝山市域は、越前国大野郡に属しました。市域の南部に当たる一部の地域が毛屋郷と呼ばれていました。三谷遺跡からは「毛屋」の文字が書かれた須恵器が出土し、袋田遺跡・榎新田遺跡（勝山地区）などからもこの時期の土器が出土しています。また、猪野瀬地区の北市遺跡では多数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり、毛屋郷の中心であったと考えられています。なお、「毛屋」の地名は近世の上（猪野）毛屋や下毛屋などの地名に引き継がれています。この時期の遺跡は、河岸段丘上に位置し、洪水の心配が少ない安定した地形に広がっています。古代には段丘上の開発が進んだことで農業生産力が向上し、人口が増えました。三室山は、その円錐形の山容から神が宿る神奈備山とされ、麓の巨石群は神が降り立つ磐座と考えられています。また、山中の貴重な水源には信仰の場が形成されました。泰澄にまつわる伝説がそうした経緯をよくあらわしていて、その代表例が「平清水（平泉）[現在の御手洗池]」です。泰澄は養老元年（717）に白山を開いたとされる越前の僧で、彼が祈っていると白山神がこの池に現れたと伝えられています。平安時代にはこの池の周りに修行僧などの活動する場ができていきました。これがやがて白山平泉寺へと発展していきます。

4 中世

～平泉寺の発展と 「かち山」～

白山信仰の拠点である白山平泉寺は、平安時代に比叡山延暦寺の末寺となり発展していきました。最盛期の室町時代には、48社、36堂、6千坊、僧兵8千、寺領9万貫・9万石とうたわれた繁栄を誇りました。しかし、天正2年（1574）に一向一揆との戦いに敗れ全山焼亡しました。しかし天正11年、越前美濃国境から帰還した顕海によって境内の一部が再興されまし

た。市内には平泉寺町をはじめとして、泰澄あるいは平泉寺とゆかりのある場所や伝承が残されています。また、この時期の遺跡も、古代に引き続いて河岸段丘上に位置していることが多く、猪野口南幅遺跡や猪野毛屋遺跡（猪野瀬地区）、松ヶ崎杉原遺跡（荒土町）では掘立柱建物跡が見つっています。猪野毛屋遺跡からは漆器椀・皿などが出土しており、村の暮らしの一端がうかがえます。

また、山中には山城が築かれました。三谷城（勝山地区）など平泉寺と関連のある山城や、野津又城（野向町）、保田【西光寺】城（鹿谷町）、壇ヶ城（荒土町）など、越前一向一揆と関わりのある山城があります。その中でも、一向一揆が白山平泉寺との戦いで、城を築き立て籠もったのが村岡山です。村岡山は一向一揆が白山平泉寺に勝ったことにちなんで「かち山」と呼ばれ、「勝山」の地名の起こりとなったと伝わっています。その後、一向一揆は柴田勝家によって平定され、勝山地域は、勝家の甥で柴田義宣の養子となった勝安が支配を任されました。

5 近世 ～勝山城下町と 周辺の村～

柴田勝安は、村岡山から袋田村(現在の勝山地区)に本拠を移し、河岸段丘の上に城を築きました。また、このとき村岡山麓さんろくの郡村から河岸段丘の下に移り住んだ人びとは郡町を形成し、袋田町、後町とともに後の勝山城下町いしずえの礎となりました。

柴田氏の後、領主の交代が続きますが、江戸時代初めの寛永元年（1624）には松平氏勝山藩が成立します。その後、幕府領となり、さらに元禄4年（1691）には小笠原貞信が入部して小笠原氏勝山藩が成立し、幕末まで継続します。また、この時期の市域には勝山藩だけでなく、郡上藩、鯖江藩、福井藩、さらには幕府の領地も置かれ、

複雑な支配体制となっていました。

小笠原氏は古城跡を利用して勝山城を再建しました。河岸段丘の上には城郭のほかに武家屋敷も整備され、すでに繁栄していた段丘下の袋田町・郡町・後町の三町とともに、近世城下町として再整備されていきました。近年は、勝山城跡・袋田遺跡の発掘調査も行われ、城郭の構造や町人のくらしぶりがよみがえりつつあります。

周辺の村においては、北郷町の旧木下家住宅をはじめとして、多くの歴史的な建造物が残されています。野向町の比良野家は勝山藩の大庄屋で、同家の離れ座敷には藩主が訪れました。また、勝山市域のほとんどの地区には浄土真宗の信仰の場である道場があり、人びとが集まって講を営む風習がありました。村の道場は信仰の場であるとともに、交流の場として村の寄り合い所を兼ねるところも多く、人びとの生活は道場を中心に営まれていました。

この時期には鉱山の開発も進みました。17世紀の『越前地理指南』には、小原、細野口、堀名中清水、檜曾谷(新町)の銀山と坂東島の鉛山、平泉寺の金山の跡が記されています。堀名銀山は、安政年間(1855~60)に幕府により本格的な採掘が行われ、多量の銀を産出しました。また、堀名や細野口には石灰山があり、農業用の石灰が生産されました。

6 勝山の藩校と筆塚



秦魯齋先生之碑

【設立の経緯】

19世紀になると全国の多くの藩で藩政改革が行われるようになります。勝山藩でも藩政改革が行われました。経済面では藩の財政を潤すため、たばこと生糸の専売制を実施しました。一方、困難な状況を乗り越え、新しい時代を切り開く人材を育てるため藩校を設立しました。

その中心となったのが藩医の秦魯齋はたるさいと藩家



林毛川肖像

老の林毛川でした。前途多難でしたが天保12年（1842）に読書堂が開かれ、2年後には成器堂と改称されました。成器とは「玉琢かずんば器を成さず」に由来しています。嘉永3年（1850）に完成し榎供養が行われました。その資金は民間から広く募集され、町内の有力町人や村部の豪農がこれに応じました。入学は最初武士に限られていましたが、後には百姓や町人も入学が許されました。

【教育の内容】

儒学や漢学を中心としてはいましたが、他藩と異なる教育が行われました。その1つが小笠原礼法を伝える家柄であることもあり、礼法を学ぶ習礼を重視したことです。2つ目は剣術・槍術など武芸が重視されたことです。その影響で鈴木定七など全国に名をはせた剣術家が生まれました。3つ目は医学教育が施されたことです。明治に入り勝山からは多くの医師が育ち全国各地で活躍するようになりました。

後身の成器小学校からは、全国的に名を知られるようになる西脇碁石や木下竹次など、著名な書家や教育者が育ちました。また、地元に残りこれからの勝山の産業界をリードしていこうとする多くの人材が育ちました。



神明社社務所

【旧成器堂の遺構】

明治に入り藩校の多くは取り壊されてしまいました。福井県でもその遺構として残るものは多くありません。ところが勝山市には、勝山藩の旧成器堂の遺構とされる建物が3か所に4つ残っています。講堂は現在勝山神明神社の社務所として利用されています。郡町の今井家には同じく門1棟と土蔵が残り、荒土町布市区には演武寮が残り布市道場として利用されてきまし



演武寮

た。いずれも勝山市の指定文化財となっています。

【寺子屋と筆塚】

読み・書き・算盤そろばんの3つは、新しい時代に乗り遅れないために必要でした。こうした考え方は身分をこえて19世紀以降急速に社会に広がっていきます。各村では道場や庄屋宅を利用して寺子屋が設立されるようになりました。学費は無料でしたが束脩そくしゅうとって、入学時に師匠に金銭や飲食物を渡しました。紙は貴重であったため、子供たちは盆の上に灰や糠ぬかをまいて、指先で文字を覚えました。教科書は「庭訓往来」「村往来」などが使われました。日常生活に必要な用語や模範文章が記載されていたからです。

明治5年（1872）、明治政府は「学制」を頒布し国民皆学はんぷの基本方針を示しました。そこには「必ス邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン…」と記されています。こうして各地に小学校が置かれるようになり、寺子屋は徐々に姿を消していきました。

【筆塚】

筆塚は寺子屋などで学んだ教え子が、師匠が亡くなった際、その学恩に報いそれを後世にまで伝えるため、塚あるいは碑の形で残したものです。そこには師匠の功績や門弟の氏名などが刻まれています。勝山市内にはいくつかの筆塚が残り、北郷小学校敷地には高原邁筆の筆塚が建っています。



高原邁筆塚

7

近現代

～たばこ・繊維産業の 隆盛から勝山市の 誕生と地域づくり～

勝山市域の近代的工業は、刻たばこと製糸業が出発点です。しかし、製糸業は明治29年(1896)の勝山大火で工場が焼失し大きな打撃を受けました。また、刻たばこ業は明治37年の煙草専売法により、たばこ製造が国の専売となりました。そのため、これらの業者が織物業へと転じていったのです。そして、第一次世界大戦にともなう好景気により、絹織物羽二重の輸出は増加し、勝山の織物業は栄えていきました。その後、時代の変化に対応して、人絹織物、合繊織物へと転換し、現在に至っています。

<コラム 近現代の日本と勝山>

I 大正期の日本と勝山

大正時代は1912年から始まります。明治27年(1894)と同37年の日清・日露戦争に勝利した日本は、欧米諸国と肩を並べられるよう、急速に産業を発展させていきます。特に大正3年(1914)から始まる第一次世界大戦以降は外国への輸出が大きく伸びていきます。

勝山では、明治時代のおわりから、たばこ製造業や製糸業に変わって織物業が発展します。また、発電所の建設にともなって手作業から、電気を使った機械による製品づくりを行う産業へと発展を遂げていきます。

発電所の営業開始

明治41年、京都電灯会社が中尾(北谷町)に発電所を設けました。それ以降、各地に水力発電所がつくられていきます。これにより機業の力織機(電力によりモーターを回して運転し織物を作る機械)運転に動力が使われるようになります。また、家庭には電灯がともるようになりました。

1914年になると勝山町の機業家によって「勝山電力株式会社」が設立され勝山町一本松で発電を行い、織物工場へ電気を安定的に供給できるようになりました。

織物産業の発達

ヨーロッパで第一次世界大戦が拡大すると、絹羽二重の輸出が伸び、量産と品質向上が要望されました。ボタン機(人力による手織機)は姿を消し、大正末期にはほとんどが力織機になります。

教育の進展

大正デモクラシーのもと、自由主義教育が広がりました。自主性を尊重する教育運動が盛んになりました。



薬師発電所内部



紋機付力織機工場

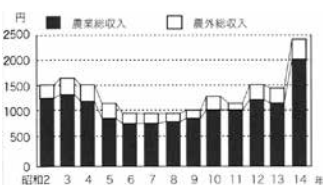
すが、こうした風潮の中で大きな指導力を発揮したのが勝山出身の木下竹次です。竹次は合科学習という考え方を唱えました。以下はその骨子です。複数の教科を統合しひとまとまりのものとして学習させる。統合し相互に関連づけることによって全体として人間関係をはかっていく。学習はすなわち生活であり、自律、真摯、そして教師の成長によって子供も伸び、子供の学習によってまた教師もまた学ぶ。現代にも通じる教育法として再び注目を集めています。

越前電気鉄道の開通

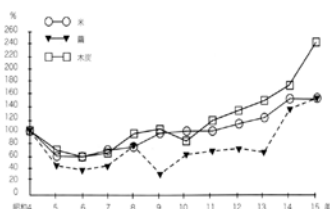
1914年、福井市から勝山町を通り大野町に達する「越前電気鉄道」が開通しました。翌年には町と駅をつなぐ勝山橋が、1919年には下荒井橋が、1923年には舟橋に変わり小舟渡橋が架設されました。これらにより勝山の交通は飛躍的に向上しました。

II 昭和初期

農家の収入



米・繭・炭の単価変動



昭和4年(1929)、世界恐慌が始まりこれが発端となって、経済不況から世界をまきこむ経済不安から世界を巻き込む戦争の時代になります。勝山もこの流れの中で戦争の渦に巻き込まれていきます。

世界恐慌の影響

世界恐慌の影響は、生糸の輸出不振から始まりました。生糸が輸出できないために、繭の値段が暴落し、それにともない他の農産物の値段も下落していきました。

このころ日本の軍部は、1931年に満州事変を起こして「満州国」を建国します。広大な未開地は理想の「共栄圏」であるとして、不況に苦しむ農家の二・三男を「満州開拓団」として送り込み

ました。

戦争による戦没者

日本は満州事変後も1937年に日中戦争、1941年には太平洋戦争へと戦争を拡大させていきます。勝山からも多くの人が戦場に動員されました。1943年頃からは敗北と撤退が始まり、戦死者も急増し、戦死の公報が相次ぎました。

戦争中の人々の暮らし

1938年に「国家総動員法」が公布されました。直接戦闘には参加していない銃後の国民には、戦争を支える厳しい生活を強いられました。それでも国民は国の勝利を信じて「撃ちてし止まぬ」「滅私奉公」のスローガンのもとに、すべての生活を犠牲にして、軍需品や食料の生産に日夜励みました。

防空演習



村や町では各町内や隣保班りんぼはんで空襲に備え防火用具を用意し訓練に励みました。また敵の上陸に備えて竹槍による訓練も行われました。

金属回収



戦争が激しくなると兵器の生産のため金属が不足しました。このため金属回収が行われました。寺の鐘から家庭の鍋までが集められ大砲や弾丸にされました。

III 戦後

戦後の人々の生活

終戦後、日本中の主要都市は空襲で焼け野原となり、被災者であふれました。勝山は多くの疎開者や疎開児童を迎え入れました。しかし人々の生活はなかなか元に戻りませんでした。食料の不足に苦しんだ人々は、農家をたずね歩き衣料などと米を交換しました。あらゆる種類の山菜を採集し、タンパク質を補うためいながも捕って食べました。



天皇勝山へ巡幸



葉煙草の収納



昭和 25 年参議院議員選挙

○天皇の人間宣言

GHQ（連合国軍総司令部）の指導の下、「人間宣言」を行った天皇は昭和 21 年（1946）から全国をまわりました。勝山にも立ち寄り機業を訪問しました。託児所の子供から「オンチャン」と呼びかけられる和やかさでした。

○農地改革

食料の増産と農村の民主化をはかるため、1946年から「農地改革」が勝山でも実施されます。5ヘクタール以上の地主の土地と、不在地主の土地を、国が安く買い上げ、小作農に売られました。

また、たばこなどの園芸作物の栽培も奨励され盛んになりました。

○民主政治の始まり

GHQの指導による民主化政策は地方自治にも取り入れられました。地方自治法が制定されると町村長と議会の選挙が行われました。また労働運動も盛んとなり多くの労働組合が結成されました。

○教育基本法を受けて

民主化政策は教育制度にも取り入れられまし



勝山中学校
成器西小学校の竣工式

た。1947年教育基本法と学校教育法が公布されると、都道府県と市町村に教育委員会が設置され、六・三・三制の学校教育が始まりました。

1950年には勝山中学校や成器西小学校の竣工式が行われました。また、食糧不足のなかユニセフの援助で始まった給食は、制度化されて完全給食となっていました。

IV 勝山市の誕生と高度経済成長



勝山市役所の開庁式

勝山市の誕生

昭和29年（1954）9月1日、大野郡北部の勝山町と周辺8か村が合併し、人口約38,000人の勝山市が誕生しました。これは、市の設置基準が3万人から5万人に改正される直前の事でした。合併までには、それぞれの利害や思惑があって難航しましたが、ようやくまとまりました。

高度経済成長と勝山機業の躍進

1955年以降、勝山市の機業は経営を刷新し、合理化を進めました。工場を近代的に建て替えるとともに、新しい繊維（合成繊維）を使った織物の生産に励みました。

◆◆◆ 歴史にチャレンジ ◆◆◆



1 江戸時代はじめころの勝山の人々は、どのような暮らしをしていたのか、勝山市史などをもとに調べてみよう。

2 小笠原氏は、どのような経緯で勝山に入ってきたのだろう。

江戸時代のお百姓さんはどのような税金を払っていたのだろう。

3 勝山から福井市や石川県白山市の白峰、岐阜県の郡上市への街道あとを歩いてみよう。

また、勝山の城下町を歩き、史跡や商家、職人の屋敷跡などを調べてみよう。

- ・筆記用具やカメラなども持っていこう
- ・町の人たちに聞き取りもしてみよう

4 勝山にはどのような祭りや伝統行事などが残っているのだろう。

その、いわれなども調べてみよう。



地域の特徴

1 勝山市の成立

明治21年（1888）の市制・町村制を経て、翌22年に江戸時代以来の袋田町・後町・郡町など三町は、武士が住んでいた所も含めて勝山町として再出発します。一方、周辺の農林業を経営の中心としていた集落は、地域ごとにまとまり平泉寺村・村岡村など9つの村に統合されました。その後、昭和6年（1931）に猪野瀬村が勝山と合併しました。1953年に「町村合併促進法」が施行され、大野郡北部でも合併の気運が高まり、翌年の昭和29年に1町8か村が合併して現在の勝山市が誕生しました。

市街地は九頭竜川によって形成された河岸段丘上に立地しています。それ以外の地区は、九頭竜川に流れ込む支流によって形成された河岸段丘上に、集落が形成されている例が多いようです。また、背後の山々と一体となって形成された集落も見られます。このように勝山市は地区により地形に特色が見られますが、特に北谷地区は山間部に位置し山村集落を形成しています。



現在の勝山市を構成する 10 地区

2 勝山地区



元禄勝山町絵図

勝山地区は、九頭竜川に沿って形成された河岸段丘上にあります。段丘崖や高低差をつなぐ坂によって特徴的な市街地景観をつくり出しています。

この地区からは、発掘調査により縄文時代から弥生時代の土器がさらに芳野町から弥生時代終末期の竪穴住居跡が発見されました。

安土・桃山時代のころ、柴田勝安の「勝山城（袋田城）」築城によって町が形成されはじめ、その後領主交代が続き、元禄4年（1691）に入部した小笠原氏の時代に城下町ができあがりました。城下町は、「七里壁」と呼ばれる段丘崖を巧みに取り込み形成されました。上位の段丘面には城郭と「家中」と呼ばれた武家屋敷が設けられ、下位の段丘面には寺社や町家が立ち並んでいました。5つの坂が上位の段丘面と下位の段丘面をつないでいました。このような特徴的な町並み景観が評価され、令和元年（2019）日本遺産に認定されました。

江戸時代は社会が安定し交通網も整備され、経済も発展して江戸・大坂・京都の三都を中心に都市が発達しました。各都市との往来が活発になり、こうして城下勝山にも俳諧など新しい町人文化が生まれました。現在も続く勝山左義長や年の市など年中行事も年々盛んになっていきました。

近代に入るとたばこ産業や繊維産業が発達し、勝山の基幹産業になりました。機業が次々と操業を始め、今でも当時からの機業場が残っています。かつて機業場であった建物が「はたや記念館ゆめおーれ勝山」として生まれ変わり、現在博物館として活用されています。当時の面影を残す町屋が本町筋を中心に残り、歴史を感じる町並み景観をかもしだしています。

（テーマ：河岸段丘の地形を活かした城下町の町並み、近世の町人文化から発展した祭り・年中行事、繊維など近代産業の発展、近代建築と文化の集積）

3 猪野瀬地区



文字が記された須恵器
(三谷遺跡出土)



泰澄母の供養塔
(旭町毛屋)

4 平泉寺地区



空からみた平泉寺

猪野瀬地区では、奈良・平安時代には北市遺跡に代表されるように、大きな集落が出現しました。この当時、越前国大野郡に含まれる「毛屋郷」がこの地区一帯に広がっていたと考えられています。また、白山信仰を開いた泰澄の母(伊野姫)の出生地と伝えられ、白山平泉寺との深い関連があったことが推測されます。大師山の山頂近くにある太子堂には、泰澄大師像が祀られています。

近世以降は、若猪野に郡上藩(現在の岐阜県郡上市八幡町)の陣屋(代官所)が設けられました。

昭和62年(1987)、民間により建設された大師山西麓の越前大仏や、平成4年(1992)に開館した勝山城博物館の現代建築は、今後の活用が見込まれる新しい拠点となっています。また、河岸段丘の地形・環境を活かした農業がこの地区の特徴となっています。現在は勝山水菜や若猪野メロン等、勝山市を代表する特産品を生産し、野菜や花の収穫体験を通して地域住民の交流が積極的に行われています。

(テーマ:白山・平泉寺とのつながりと自然地形(大師山)、郡上藩の代官所、歴史をつくる現代建築(勝山城博物館・越前大仏)、地形と農業(勝山水菜・メロン))

平泉寺地区は、苔・杉木立・菩提林・弁ヶ滝などの特徴的な自然に恵まれています。中世の石造物が密集する平泉寺墓地、平泉寺と白山をつなぐ白山禅定道(越前禅定道)、大矢谷白山神社、平泉寺金山跡などの文化財が多数あります。その中でも、国史跡に指定されている白山平泉寺旧境内は、平泉寺白山神社を核とし面積約200haに及び、平泉寺地区の歴史文化の中心です。中世には48社、36堂、6千坊が存在し、全国屈指の「中世宗教都市」として繁栄しました。現在、史跡内では発掘調査や史跡整備が進められ、その歴史が少しずつ明らか



発掘された石畳道



白山平泉寺歴史探遊館
まほろば

かになっています。白山平泉寺をつくり出した石畳道や石垣など、石を使った技術は一乗谷へ伝わり、戦国大名の朝倉氏による城下町形成に活かされたと考えられています。史跡のガイダンス施設である「白山平泉寺歴史探遊館まほろば」は、来訪者の拠点として最新の情報を発信しています。なお、白山平泉寺旧境内や出土品、そして石造物などは令和元年(2019)、日本遺産に認定されました。

また、平泉寺地区はなだらかな斜面に集落が形成され、集落内の道に沿って石垣が築かれています。なだらかな斜面に集落が形成されて集落内の道に沿って石垣が築かれています。周辺の山並みを背景として田園風景が連続しており、自然環境と人びとの営みが一体となった集落景観が形成されています。平泉寺区では地域住民により、平泉寺白山神社境内を中心とした歴史的環境が守られています。

(テーマ：白山禅定道、国史跡白山平泉寺と日本遺産、大工技術と建造物(寺社・民家))

5 村岡地区



村岡山

村岡地区は、九頭竜川に流れ込む支流に沿った山裾に集落が形成されています。滝波川、浄土寺川、暮見川、これら河川の自然豊かな水辺環境と、長尾山、村岡山など里山環境にも恵まれています。滝波付近には、縄文時代の遺跡が多く分布しており、昔から人びとが住む地域であったことがわかります。

戦国時代には、村岡山が一向一揆勢の拠点となり、山城が築かれて、平泉寺との決戦の場となりました。そしてこの戦いに一向一揆勢が白山平泉寺に勝ったことにより、この山は「勝ち山」と呼ばれ、「勝山」の地名の由来になったといわれています。村岡山は、地区の象徴として住民により大切にされており、地域で登山道の整備を行うとともに、



滝波お面さん祭り

毎年8月には「ちょうちん登山」を行っています。毎年2月11日、滝波区では「滝波お面さん祭り」が行われます。江戸の前期から続けられ3つのお面のお開帳と、18世紀初期から始められたと思われる烏帽子着（名替え）祝いの2つの行事から成り立っています。

また、長尾山には、県立恐竜博物館及び長尾山総合公園が整備され、福井の恐竜化石を発信する拠点となっており、全国から多くの見学者が訪れています。なお、化石と化石が発見された発掘現場は、平成29年（2017）に国天然記念物 勝山恐竜化石群及び産地として指定されました。

（テーマ：縄文時代からはじまる自然と共生する暮らし、一向一揆の拠点・勝山のはじまり、恐竜の発信(恐竜博物館)）

6 北谷地区



ミチノクフクジュソウ

北谷地区は広大な面積を有しますが、そのほとんどが山地で、県内でも有数の多雪地帯でもあります。しかし豊かな自然環境に恵まれています。中世には、河合、六呂師、中尾、木根橋、小原、谷、中野俣、杉山、そして横倉（野向地区）をあわせて「七山家」と呼ばれていました。中世に平泉寺との戦いにおいて主力となったのはこの七山家です。当地には柴田義宣・勝安と戦った谷城跡などの遺跡や、ここで討ち死にした柴田義宣の五輪塔があります。

木根橋にあるミチノクフクジュソウ自生地では、白山麓はくさんろくの自然環境の保護・整備等に取り組む小原ECOプロジェクトが中心となり、村岡小学校と保全活動を毎年行っています。また、日本最大の恐竜化石を産出する1億2,000万年前の地層「手取層群北谷層」が露出しており、多数の化石が発掘されてきました。現在、杉山の化石発掘現場は野外恐竜博物館として見学することができます。

その他、この地区は石川県白山市白峰へ通じる



谷のはやし込み

道沿いに発展した地区です。この地域には古くより牛首（石川県白山市白峰）から出作りで定着した人が多いため、その子孫も白峰の浄土真宗寺院の門徒を引き継いでいます。当地区には勝山と加賀との往来拠点として発展した農山村文化が今も色濃く残っています。例えば、地区の古い歴史を物語る家並み、白山麓の豪雪地帯に特徴的な大壁造（おおかべづくり）の民家、谷のお面さん祭り、はやし込みに代表される民俗行事、食文化、民具などです。勝山と加賀との往来拠点として発展した農山村文化が色濃く残っています。

北谷町コミュニティセンターにある山の駅「よろっさ」は、地元住民によるNPO法人きただに村が指定管理者として管理・運営し、鯖の熟れ鮎し等地元特産品を生産・販売しています。また、北谷の歴史や自然環境を活かした教育を行っているかつやま子どもの村小学校・中学校により、旧北谷郵便局が道具博物館として活用されています。

（テーマ：日本最大の恐竜化石発掘地、加賀牛首との往来拠点として発展した農山村、越前白山麓の豪雪地帯の暮らし）

7 野向地区



越戸峠の石籠

野向地区は、勝山と加賀新保を結ぶ大日峠の入口にあります。良質の粘土が産出され、竜谷には平安時代に須恵器を生産していた窯跡が発見されています。竜谷の須恵器は、北市遺跡など市域の遺跡からも出土しています。また、江戸時代後期に、勝山地区の国泰寺や尊光寺の瓦を焼いた記録も残っています。

越戸峠には「永禄四年」（1561）の銘を持つ笏谷石製の石籠があり、この時代の石造物として大変貴重なものです。

蓮如伝説等に関係した史跡が多くあるのも特徴で、北野津又にはお霊屋跡があり、その他箸杉・御膳水・不乾池・蓮如清水・五三の松等があります。同



句碑紅梅塚

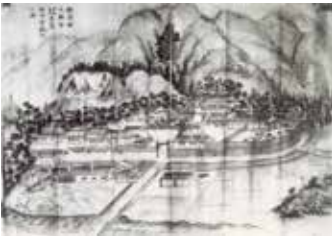
地区には一向一揆の拠点となった野津又城跡があります。

竜谷には江戸時代の中・後期に大庄屋を勤めた比良野家があります。当家には、勝山藩主が幾度か訪れており、当時の座敷や長屋門が今も残っています。幕末から明治にかけて活躍した比良野^{きょうんぼう}帰雲坊は、美濃派の俳諧に親しみ、他国の俳人とも交わって、竜谷で紅梅吟社をつくっています。彼の建てた句碑紅梅塚周辺は、明治時代になって龍谷公園として整備され、市の名勝に指定されています。

NPO法人まちづくりのむきの会により運営される「のむき風の郷」では、地元農産物等や、エゴマ栽培とエゴマの油を主とする特産品の開発・販売をしています。

(テーマ：須恵器と瓦の生産、加賀新保との往来、蓮如上人の心が宿る地域と野津又城、豪農と農村文化(比良野家・食))

8 荒土地区



堀名銀山図



佐羅宮があった現在の
伊波の白山神社

荒土地区は、山裾の平地に田園が広がり、その東に目を移すとその先には白山連峰のダイナミックなパノラマも眺望でき、美しい自然風景が広がります。

この地区には鉱山があり、堀名銀山は、安政6年(1859)から本格的な採掘が幕府の手で行われ、良質の銀鉱石を産出しました。現在も当時の面影を残す鉱山の入口跡があります。^{たちばなのあけみ}橘曙覧がここを訪れて、銀山で働く人びとなどを歌に詠みました。時を同じくして、堀名石灰山の採掘も行われました。採掘は、明治の近代化とともに盛んとなり、第二次世界大戦時には軍需工場となって、最盛期をむかえました。

堀名銀山近くにある壇ヶ城は、戦国時代に一向一揆を率いた嶋田将監^{しょうげん}が立て籠もり、白山平泉寺を攻撃する拠点となりました。また、かつて交易が行われた場所であったといわれる市姫神社や、平

泉寺ゆかりの大屋敷、佐羅堂、大門といった地名が残っています。

現在、地区では、昔ながらの炭焼き体験や新たな特産品としてのウドの栽培等、農村文化の歴史を活かしながら新たな文化や生業の創造を試みています。

(テーマ：鉱山のまちとしての発展、一向一揆の山城壇ヶ城、農村文化(炭焼き・ウド))

9 北郷地区



畑ヶ塚



鷲ヶ岳から望む
北郷地区

北郷地区は九頭竜川や岩屋川等の豊かな水辺環境を活かして、山裾に農村が形成されています。北郷地区は交通の要所であり、その中でも小舟渡は、福井と勝山をつなぐ九頭竜川の重要な渡し場でした。

岩屋は自然が豊かで、現在は無住になっている岩屋観音、岩屋の大杉、岩窟などで知られています。泰澄や道元も訪れたと伝えられる霊場でもあります。南北朝時代の伊知地古戦場は『太平記』にも記述があり、新田義貞の四天王の一人、畑時能が斯波高経の大軍と戦って戦死したところです。伊知地には畑時能を弔う畑ヶ塚があり、毎年10月25日に追悼の例祭を行っています。

旧木下家住宅は、江戸時代に庄屋を勤めた豪農の住宅です。建物は江戸時代19世紀の初期に作られ、その際に使用された部材、祝品などを書き上げた普請帳も残ります。こうした点が評価され平成22年(2010)に国指定重要文化財となり、地元を中心に保存と活用が進められています。

また、桧曽谷(新町)や坂東島などにはかつて鉱山がありました。前者は安土・桃山時代より北袋銀山として栄え、新町は鉱山の採掘に従事する人びとが集まってできた村です。坂東島鉱山は金・銀・銅・鉛等を産出し、明治後期には三菱合資会社はその規模を広げました。

なお、地元では九頭竜川の鮎のブランド化に取り組んでいます。

(テーマ：自然と宗教空間(岩屋観音)、古戦場、江戸時代の庄屋屋敷旧木下家住宅、北袋銀山と坂東島鉱山)

10 鹿谷地区



遅羽側から見た赤岩の絶景



志田神田遺跡から
発見された布送具

鹿谷地区は九頭竜左岸に位置し、中世の白山平泉寺と一乗谷を結ぶ安波賀街道や、大野方面との峠道などがあり、古くから往来の盛んな地域です。近代に入ると大正時代(1912~26)には京都電灯越前電気鉄道(現えちぜん鉄道)が通り、現在は中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジがあります(写真には大正頃の越鉄線路が見える)。この開発に伴い、発掘調査を行ったところ縄文時代から江戸時代までの当時の人々のいとなみの様子が垣間見られる大きな発見につながりました。特に、弥生時代中期に使用されていたといわれる木製の機織り具である布送具が見つかったことです。これは、現在のところ、県内で唯一の発見事例になります。

その他に、縄文時代の本郷遺跡をはじめ、^{ほっさか}発坂や志田には弥生時代や平安時代の遺跡が発掘されています。鳴田将監や朝倉景鏡^{かけあきら}の城といわれる西光寺(保田)城は、白山平泉寺や一向一揆の歴史を考える上で重要な文化財です。江戸時代初期のころは松平大野藩5万石の支配を受けていましたが、天和2年(1682)に4万石に減らされました。そのため一時保田村に1万石の領地を管理する代官所が設けられました。享保5年(1720)に鯖江藩が成立すると、当地域の6か村がその藩領となり明治を迎えました。昔ながらの農村文化が現在まで伝えられており、ござぼうしの産地として知られていました。なお、毎年2月に開催される鹿谷町雪まつりは、地域をあげての行事となっています。

(盛んな往来、鯖江藩支配の名残り、農村文化(ござぼうしなど)、雪と共生する文化)

11 遅羽地区



三室山



配石遺構



山内淡月頌徳碑



勝山駅舎



観音さまのおすすめ

遅羽地区は九頭竜川の左岸に位置します。三室山は、縄文時代の三室遺跡、古代祭祀遺跡、一向一揆時代の三室山城として地区のシンボルになっています。また、山の麓に縄文時代に作られたこぶし大の大きさを測る川原石を用いて、円形状におそらく配石した遺構が見つかったことは大きな発見でした。

これに加えて、^{はこ}笥の渡しや^{うのしま}鵜島の渡し、^{ひしま}比島の渡し、^{たんげつどう}淡月道や赤岩トンネル、勝山駅など、交通に関する記念物等も多数あります。カタクリの群生地であるバンビラインの里山自然環境は、地域で大切に守られています。

えちぜん鉄道勝山駅は、勝山市の玄関口ともなり、駅舎は大正時代に作られたものがそのまま残っていることが評価され、国の登録文化財になっています。駅前には、ふるさと茶屋「縄文の里」が地区の住民を中心に運営されており、地元で親しまれてきた伝承料理が提供されています。

遅羽まちづくり会館内には、縄文遺跡等資料室が設置され、三室遺跡を中心に市内の縄文遺跡等から出土した遺物が見学できます。また、三室小学校では「原始運動会」が行われるなど、地域の中で遺跡を活用する取組が積極的に行われています。

2月20日、遅羽町北山で「観音様のおすすめ」行事が行われます。区に祀られている十一面観音に五穀豊穰を祈り、その徳を区民に分ち与えるために行われるものです。子供達が「かんのんさまのおすすめ おすすめ」と家々をめぐり歩き米を集めて回ります。米はおかゆにされ区民たちが食べあいます。

(三室遺跡、バンビラインなどの里山環境、勝山の玄関口えちぜん鉄道勝山駅舎)

文化財保存活用地域計画と 日本遺産

1 文化財保存活用 地域計画について

わたしたちは、先人たちの歩みと密接なつながりを持ちながら現在を生きています。その歩みは確実にわたしたちやわたしたちの子孫が生きるであろう未来に途切れることなくつながっていきます。過去を知ること、先人たちに学ぶことは、わたしたちが未来へどのような歩み方をするのかを考えることにほかなりません。

文化財は、先人たちやわたしたちがこれまで身につけてきた知識や技術、地域社会などの歩みをよみがえらせてくれます。わたしたちは、はるか昔から育まれ続けてきたこのような「歩み」を未来へ伝えていく責任を持っています。そして、それを市内外の人びとにも広く伝えていかなければなりません。

また、文化財を通して地域の歴史文化を読み解くことで現れる地域のおもしろさや重要性を知ることができます。これは、地域の特徴を理解することや地域社会の活性化にもつながります。

このような文化財を保存・活用していくためには、各文化財の所有者や管理者だけでなく、市全体で推進することが必要です。また、民間事業者をはじめ、さまざまな関係者や団体と協働体制を構築し、それぞれのノウハウを持ち寄って、多様な手法で保存・活用を行っていくことが望まれます。

この計画の作成を契機として、文化財の保存・活用に対する意識を高め、住民参加の裾野を広げていくことが大切になっていくことでしょう。



2 日本遺産について



「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。

勝山市では、平泉寺と勝山城下町が「400年の歴史の扉を開ける旅～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～」のストーリーで、令和元年（2019）に日本遺産の認定を受け、文化財の保存だけでなく、積極的な活用が図られています。また、この日本遺産は、福井市と勝山市の複数の自治体にまたがってストーリーが展開して認定されています。

《ストーリーの概要》

越前・福井には、中世に大量の石を用いて計画的につくられた2つの都市が誕生し、今も独特の空間を醸し出しています。また、近世の福

井城下町は、風景に溶け込む美しい青色の笏谷石が天候によって町並みの色合いを変化させ、勝山城下町では、自然の力がつくった階段状の地形を活かす町に石の壁が断続的に続いています。

さまざまな形に姿を変えて時代を越えてきた石が私たちを出迎える越前・福井は、日本人と石との共生の歴史や屈指の石づくり文化を体感させてくれる地です。

■石づくりの中世宗教都市と戦国城下町

古くから北陸道諸国の都からの入口であった越前。中世には大きな二つの「都市」、白山平泉寺と一乗谷が生まれました。平泉寺は、全国的にもいち早く多くの石を使って計画的な「都市」をつくりあげ、越前での石を使ったまちづくりのルーツとなりました。その技術は一乗谷へと受け継がれていきます。

〔勝山市内の構成文化財〕

白山平泉寺旧境内（国史跡）、中宮白山平泉寺境内図、安波賀街道、九頭竜川、白山平泉寺出土品

■近世城下町のまちづくりと石

一乗谷と平泉寺が滅びた後、石に関する技術は、新たに築かれる近世の城郭と城下町へと受け継がれていきます。福井城とその城下には、「笏谷石」が大量に用いられました。勝山城とその城下町では、武家地と町人地をわける南北方向の高さ5～7mの河岸段丘崖「七里壁」に川石を使った石垣が徐々に築かれるようになりました。

〔勝山市内の構成文化財〕

七里壁（市史跡）、旧勝山城下の街並み景観、大清水

■石に現れた日本人の美と信仰

石は美の表現や信仰の対象にも活かされました。中世の平泉寺や一乗谷につくられた石を使う庭園や、笏谷石製の石仏・石塔は、当時の人びとの美意識や精神文化、祈りの心などにふれることができます。また、神社には美しい造形の狛犬を数多く見ることができます。

〔勝山市内の構成文化財〕

旧玄成院庭園（国名勝）、白山平泉寺の石造物

【わたしたち歴史探検隊】 地域の歴史を調べてみよう

◆はたや記念館『ゆめおーれ勝山』を訪ねて

勝山のせんい産業の発展を探る

はたや記念館「ゆめおーれ勝山」は、明治38年（1905）から平成10年（1998）まで、勝山の中堅機業場として操業していた建物を、保存・活用した施設です。市内の現存する木造の機業場の中ではもっとも古く、平成18年に勝山市有形文化財に指定され、翌年には経済産業省の近代化産業遺産にも認定されました。わたしたち歴史探検隊は、この記念館を訪ね、なぜ、勝山市が「せんいの町」といわれるほど、せんい工業がさかんになったのか調べようと思いました。



①『ゆめおーれ勝山』を見学しよう

『ゆめおーれ勝山』では、機屋に関する歴史やそこで働いていた織子さんの生活のようすについて見学しました。機屋で使われていた織機や糸繰機、整経機が展示されており、勝山の典型的な「機屋」の姿が残されていました。



【物知りメモ】博物館の見学

- 見学に行く前に、博物館の概要や開館時間などを調べ、予約が必要な場合は必ず予約をしておこう。
- 博物館の方の話を聞きたいときは、前もって連絡しておこう。
- 説明や展示されているものについて疑問をもったことや、わからないことがあったら、職員の方などに質問してみよう。
- 展示物はできるだけ細かく観察しよう。

↑歴史ギャラリー

機屋に関する歴史をわかりやすく紹介しているね。

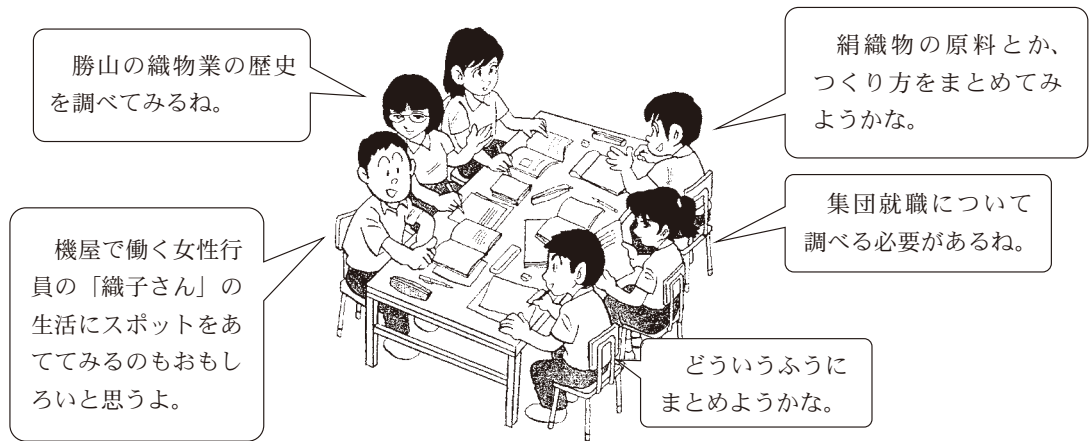
糸繰機→

機屋で動いている機械を
目や耳で体感することができたよ。



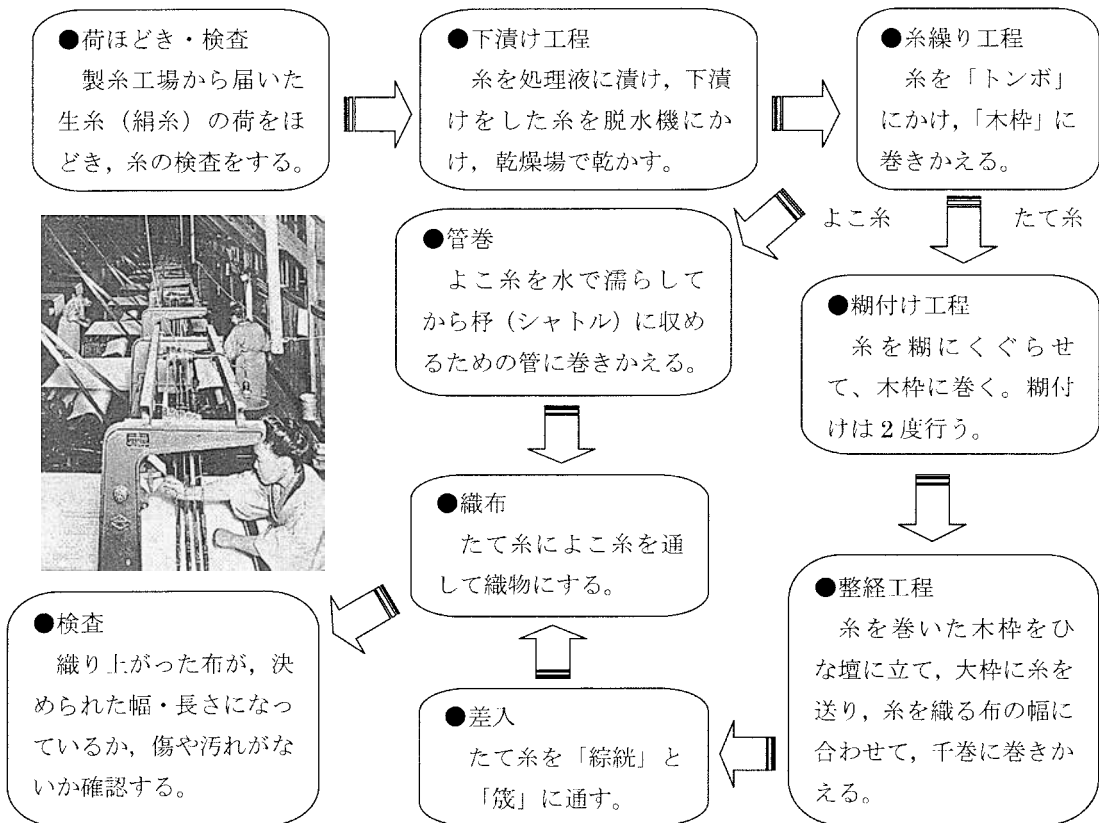
② 見学して疑問に思ったことを話し合おう

『ゆめおーれ勝山』を訪ねた歴史探検隊のメンバーは、勝山市で織物業が本格的にはじまったのは明治時代の中ごろだったことを知りました。そこで、見学したことをもとに話し合い、いくつかのテーマに分けて、調べることにしました。



③ 調べてわかったことをまとめよう

<テーマ1> 絹織物「羽二重」はどのようにつくられるのだろうか。



<テーマ2> 勝山の織物業は、どのように発展してきたのだろうか。

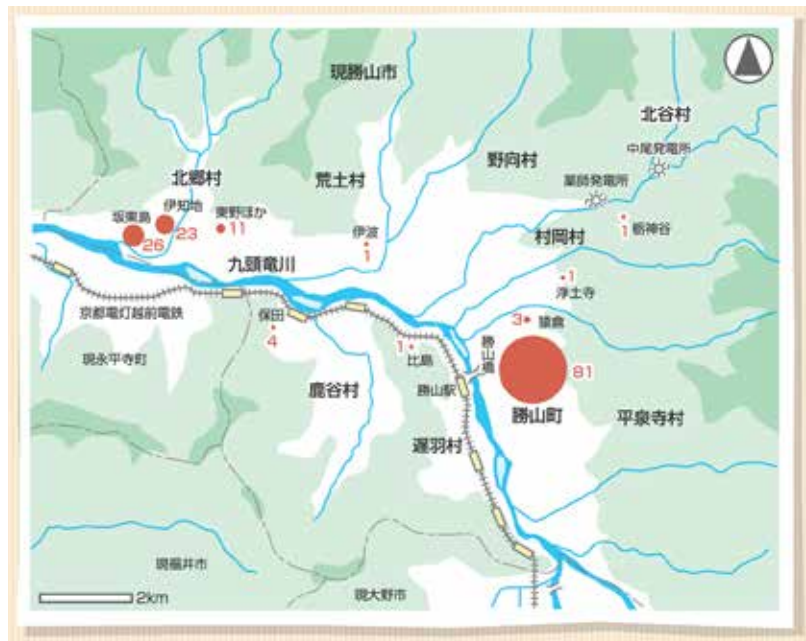
勝山では幕末から明治時代にかけて、たばこや生糸の生産がさかんでした。しかし、生糸は他の先進的な産地に押されて生産が落ち込み、たばこは明治30年（1897～）代に専売制になったため、多くの生糸やたばこ業者が織物業へと転換していきました。

【勝山の織物業の発展】

- 明治7年（1874） 袋田町岸ノ下に製糸工場が建てられ操業を始める。
- 明治9年（1876） 勝山製糸会社が創立される。
- 明治15年（1882） バッタン機による機織りがはじまる。
- 明治23年（1890） 白木治右衛門が機業を始める。
- 明治40年（1907） 山岸伊之助が山岸機業場を創設。
- 明治41年（1908） 京都電灯株式会社が北谷村中尾に発電所を建設。
力織機運転に電力が使用されるようになる。
- 明治43年（1910） 勝山兄弟合資会社発足。
- 明治45年（1912） 県下に先駆け勝山織物組合ができる。
- 大正3年（1914） 福井～勝山間に電車（京都電灯）が開通し、織物製品の運送力が向上する。
- 昭和9年（1934） 人絹織物業が最盛期を迎える。

勝山地域の機屋の数（1936年ごろ）

※数字は機屋の数

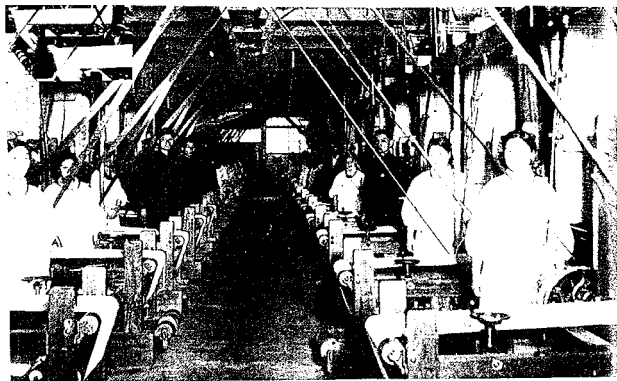


（『勝山市史』3巻を参照に作成）

- 太平洋戦争中（1941年～） 一部の機屋では、軍需用として落下傘の生地を織るようになる。
- 戦後の復興期（1950年～） 「ガチャマン」景気（織機が1回動くと、1万円もうかる）を迎える。
- 高度経済成長期（1959年～） 県外からの集団就職者の受け入れを始める。

<テーマ3> 機屋で働く「織子さん」は、どのような生活をしていただろう。

「織子さん」とは、機屋で働く女性工員のことです。ほとんどが近くの農家から働きに来ており、大半が10代後半から20代の若い人たちです。寮に入る人もたくさんいて、寮では「夜間青年学校」が開かれました。



● 織子さんの1日のスケジュール（寮生活）

織子さんの一日	
5:00	起床
5:30～5:45	朝食
6:30～12:00	仕事
12:00～12:15	昼食
13:00～17:30	仕事

昭和10年（1935）ごろ

● みんなで食事をしているところ



ある日のメニュー（寮生活）

朝	タクアン わかめの味噌汁
昼	タクアン キャベツ きゅうりと油揚げの味噌汁
晩	タクアン 牛肉、玉ねぎ、じゃがいもの煮付け

くわしく知りたいときは…

勝山の歴史や織物産業などについてまとめた書籍で調べてみましょう。



「ものがたり かつやまの歴史」
上・中・下



「はたやブックレット」1～11

ほかにも色々な本があるので、図書室や図書館などでさがしてみよう！

勝山市の政治と自治



完成したゆめおーれ勝山



耐震補強工事が完成した
市役所本庁舎



村岡児童教室（むろこザウルス）
開所式の様子

1 私たちと勝山市の政治

▶ 勝山市は私たちのためにどんなことをおこなってくれているのかな



定住化促進のため取得する
下毛屋宿舎



勝山市地域子育て支援センター

地方公共団体

私たちは勝山市に住み、同時に福井県にも属しています。勝山市民であり、福井県民なのです。このような勝山市や福井県を地方公共団体（地方自治体）といいます。勝山市役所や福井県庁に行ってみるとわかるように、勝山市や福井県（地方公共団体）は、そこに住む人々の生活に結びついた様々な仕事をしていることがわかります。

市が行っている仕事

私たちの卒業した小学校や今通っている中学校は、勝山市によって設置されています。市内には、地域ごとにまちづくり会館や公園、児童センターなどが置かれています。また、市の中心部に市立図書館や市民会館、教育会館などがあります。ゴミの収集や処理、上下水道の整備、消防なども市の仕事です。冬になると、道路の除雪や融雪も行っています。市は地域の高齢者や障がいのある人への支援も行っています。これは福祉といわれますが、介護のほかにも困っている人のために、福祉健康センター「すこやか」などの施設を設置しています。

▶
地方自治とはどういうことかな

条例とは

その地方公共団体にだけ適用されるきまりのことをいう。

勝山市には、

「はたや記念館『ゆめおーれ勝山』の設置及び管理に関する条例」などがある。

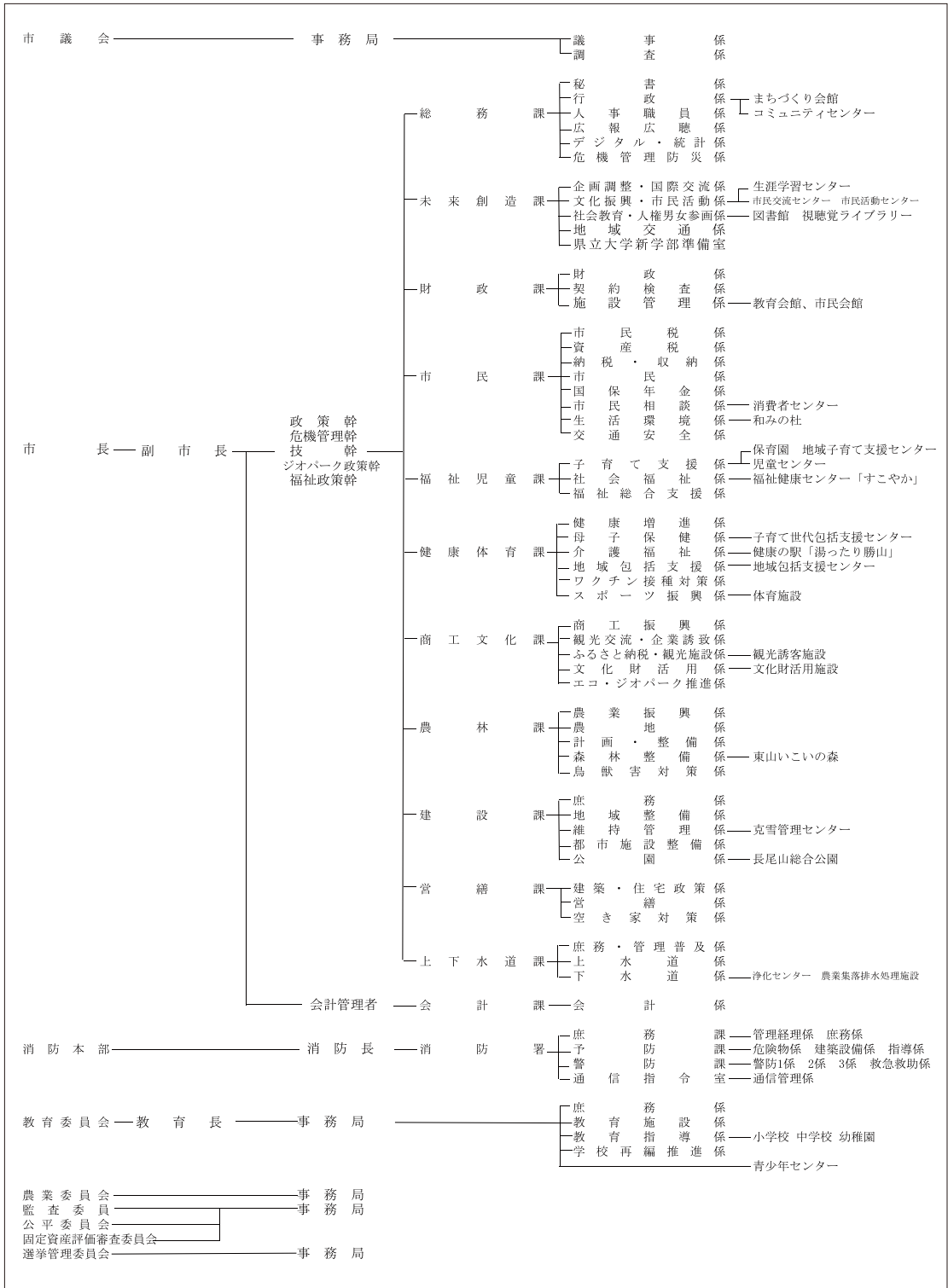
現在の勝山市長は、
水上実喜夫氏です。



地方自治

勝山市は、市長を中心に図のような組織をつくり多くの仕事を行っています。勝山市など地方公共団体の仕事は、住民の手により、住民のために行われるという**地方自治**の原則で運営されています。そのため、勝山市長や勝山市議会議員は、勝山市民の直接選挙で選ばれます。現在の市長は、2020年11月の選挙で選ばれました。14名の市議会議員は、2023年8月の選挙で選ばれた人々です。この選挙は、それぞれ4年に一度行われますから、次回の市長選挙は2024年に、市議会議員選挙は2027年に行われる予定です。市議会は、予算の承認を行ったり、**条例**を制定したりしています。

令和4年度 勝山市行政機構



勝山市の財源(令和4年度当初予算)

総収入 119億2,800万円

自主財源	依存財源
------	------

↓
市税など
38億1,696万円

↓
地方交付税交付金、国庫支出金、県支出金、市債など
81億1,104万円

自主財源の割合の変化

H30	R1	R2	R3
23.3%	23.5%	23.7%	29.9%

◎ 勝山市の自主財源の割合は？

() ÷ () × 100 = ()

2

地方分権と住民参加

▶ 勝山市が独自性を発揮して活動を行っていくためには、何が必要なのかな

①国から県へ任された仕事

- 公共下水道事業計画の認可
- 国定公園の特別地域の指定

②国から市へ任された仕事

- 犬の登録、鑑札の交付
- 児童扶養手当の受給資格の認定

③県から市へ任された仕事

- 有害鳥獣の捕獲許可
- 市教育長の任命
(県教育委員会の承認が
いらない)

地方分権と地方財政

平成11年(1999)、地方分権を実現するための関連法案が成立しました。地方分権とは、地方公共団体が独自性を発揮して、自由に活動できるようにしようとするものです。そのため、それまでの国の仕事の多くが地方公共団体に任せられるようになりました。

ただ、地方公共団体が独自性を発揮して自由に活動するには、それを可能にする財政が必要です。しかし、勝山市などのような小規模の地方公共団体の財政は豊かではありません。勝山市は市税などを収入としていますが、これだけの収入で、市民のためにいろいろなことを行うことはできません。不足する分は、国からの地方交付税交付金などで補われています。また、勝山橋の掛け替えなどのような特定の活動を行うために、国庫支出金など国や県からの補助も受けています。

このように、勝山市独自の財源が少ないことが問題になっています。



(勝山市役所のホームページ) <http://www.city.katsuyama.fukui.jp/>

▶ 私たちにとって、地方分権は、
どうして大切なのかな

勝山市で出された監査請求

- ①旧福井県立勝山精華高等学校の土地に係る補償費について
- ②違法不当な公金支出について

住民参加

地方分権を充実させるためには、地方自治が強化されなければなりません。地方自治の実現のために、市民には市長や市議会議員の選挙のほか、条例の制定や市長・議員の解職（リコール）、市議会の解散などを求める**直接請求権**が認められています。勝山市では、2014年から2017年にかけて2件の住民監査請求が出され、直接請求権がつかわれています。しかし、近年は、監査請求が出されていません。さらに、福井オンブズマン勝山支部も設置されています。ここでは、勝山市の行政が適正に行われているか監視しています。いっぽう勝山市は、その活動を明らかにするために、広報「かつやま」を発行するなど情報公開を行っています。また、図のようなホームページもつくられています。

第 2 章

わたしたちのくらしと税金

		直接税	間接税
国 税		所得税 法人税 相続税	消費税 酒税 たばこ税 有価証券取引税 印紙税
	道府 県税	道府県税 事業税 自動車税	道府県たばこ税
地方 税	市町 村税	市町村民税 固定資産税 軽自動車税	市町村たばこ税 入湯税

間接税って他に
どんなものがあるのかしら

休日に家族でドライブに出かけます。朝、顔を水道で洗い、お茶を飲みます。途中、ガソリンを給油します。道路を走り、レストランで食事をします。旅館に泊まり温泉に入ります。夜ご飯の時ビールを飲みました。このような行動をしているうちにも支払っている間接税はたくさんあります。

3 財政と税金



税金って大切な
のね。
でも税金もたか
さんの種類がある
のね。

税金はどうして必要なのか

私たちの生活は、家計の収入が増えても学校、図書館、博物館、道路や住宅、上下水道、病院、公園など公共的な施設がないと本当に豊かな生活できません。また、安心して文化的な生活をおくるためにも、警察、消防、教育、保健衛生などの公共的なサービスが必要です。そして生活に困っている人や高齢者も安心してくらすことができるようにしなくてははいけません。

こうしたサービスや施設をつくるのは、政府や地方自治体の仕事になります。そのために税金を集めています。

税金とはなにか

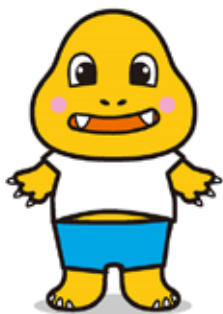
家計や企業が国に納める税金を国税、地方公共団体に納める税金を地方税といいます。また、税を負担する人が直接納める税を直接税、商品を買ったり、飲食をしたりしたときに消費者が負担し、生産者や販売者が納める税を間接税といいます。

間接税として皆さんは消費税を知っているでしょう。しかし、間接税はそれだけではありません。

税金を使用して、設置（建設）された勝山市の公共施設



2 租税の課題



勝山市は財政の
健全化のため市債を
ぐっとおさえているん
じゃぞ

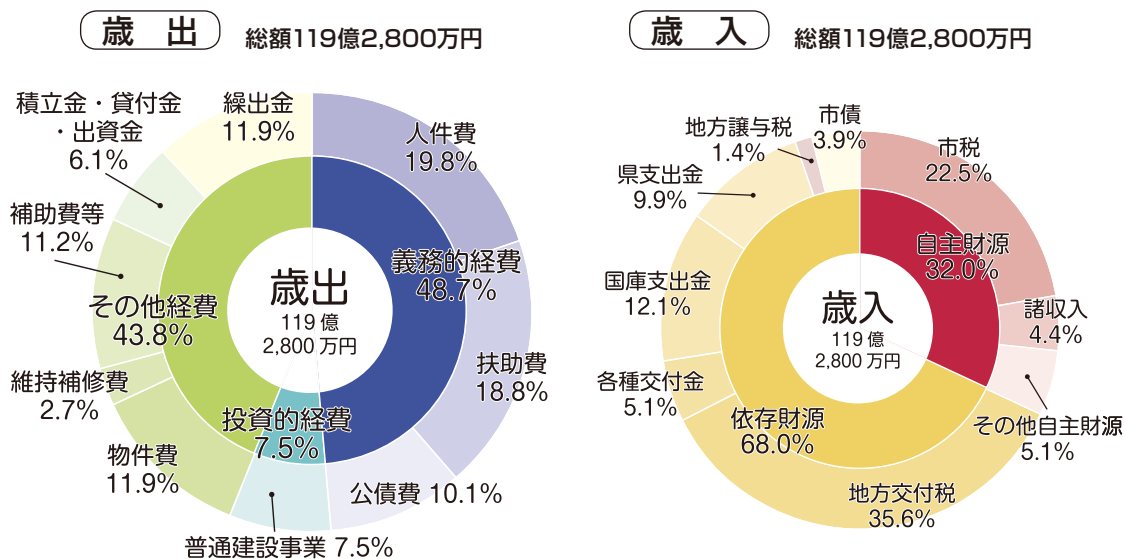
租税のはたらきと課題

税金は国民生活の向上や安全につながっています。そのため、国民は納税の義務を負っていますが、その義務を納得して支払ってもらうためには、適正で公平な課税が行われる必要があります。例えば所得税などの累進課税制度は、負担する能力に応じて税を課することによって、税の負担をできるだけ公平にしようとするしくみです。しかし、業種によっては所得額を正確にとらえられないことから、税の負担が公平にならないという弱点があります。

また、買う人が負担する消費税のような間接税は、同じ商品を買う場合にはだれでも同じ税額を払います。しかし、税金の所得に対する割合は、所得が少ない人ほど大きくなります。

また、増え続ける国債や地方債の問題もあります。税金だけで必要な財政支出をまかなうことができないとき、政府や自治体は国債や地方債を発行して、民間から資金を借り入れることができます。しかし、国債や地方債は借金ですから、慎重に発行額を検討することが必要です。

勝山市の歳入と歳出のグラフ (令和4年(2022)度一般会計当初予算)



予算総額 197億3,528万円
(前年比2.9%増)

一般会計 福祉や教育、道路の整備など、市の基本的な事業を行う会計
119億2,800万円 (前年比4.8%増)

特別会計 国民健康保険や介護保険など、特定の収入で特定の事業を行う会計
68億9,217万円 (前年比1.5%減)

企業会計 水道を利用する皆さんが支払う料金収入で事業を行う会計(水道事業)
9億1,511万円 (前年比15.4%増)

3

勝山市の 歳入と歳出

勝山市の教育費はどれぐらい
かかっているかな

勝山市の歳入の特色

市の一年間の収入を歳入といいます。市の歳入はさまざまな税金等でまかなわれています。

勝山市の市税収入では、土地や建物などの固定資産に課せられる固定資産税、個人の所得に課せられる市民税、会社などの法人に課せられる法人市民税、軽自動車に課せられる軽自動車税などがあります。

しかし、県や市町村ではいろいろな仕事をするとき、その地域の人々が納める市税や県税だけでは仕事できません。そのため、国の税収入から地方交付税や国・県支出金（補助金等）などをもらって事業を行います。

勝山市の歳入をみると、左の円グラフのように、市税などの自主財源よりも、国からもらう地方交付税や国・県支出金などの依存財源の比率が高いことが分ります。

勝山市の歳出の特色

市の一年間の支出を歳出といいます。市は民間の企業では供給することができないものや、サービスを市民に供給しています。市は道路（除雪含む）や上下水道、ごみ、教育、観光、福祉事業などいろいろな仕事をしています。

勝山市の歳出をみますと、左の円グラフのように、扶助費（児童、障害者、高齢者、生活保護関係など）の比率が高いことが分ります。勝山市の高齢化率は、県内17市町中3位で36.2%（令和2年4月現在）となっています。勝山市は市単独での少子・高齢化に対応した、人にやさしいまちづくりを進めています。

*** ヌ 毛 ***

《 出 典 》

- 地理
- ・ 広報勝山（勝山市）
 - ・ 市勢要覧（勝山市）
 - ・ 勝山のすがた（勝山市）
 - ・ 県勢要覧（福井県）
 - ・ 第2次事業実施計画（福井県）
 - ・ 福井県ホームページ（福井県）
- 歴史
- ・ 図説 勝山市史（勝山市）
 - ・ 図説 福井県史（福井県）
 - ・ 勝山市史（勝山市）
 - ・ 勝山の歴史（勝山市）
 - ・ ものがたり かつやまの歴史
 - ・ はたやブックレット
 - ・ 勝山市文化財保存活用地域計画
 - ・ 福井県史 通史編（福井県）
- 公民
- ・ 広報勝山（勝山市）
 - ・ 市勢要覧（勝山市）
 - ・ 勝山市のすがた（勝山市）
 - ・ 税金に関する冊子多数（福井県）
 - ・ 他県の税金に関する副読本
 - ・ ジオパークに関する冊子

《お世話になった方々および機関》

- ・ 勝山市教育委員会
- ・ 勝山市役所

初版編集委員（平成 13 年）

編集委員	代表	丹 後 清 明	平泉寺小学校校長
	推進委員	廣 瀬 介 治	勝山中部中学校教諭
		道 関 直 哉	勝山南部中学校教諭
		島 田 雅 仁	成器南小学校教諭
		辻 さと子	村岡小学校教諭
		金 巻 健 朗	勝山南部中学校教諭
編集委員		松 山 儉 三	勝山南部中学校教諭
		藤 堂 善 弘	勝山中部中学校教諭
		横 山 由紀子	勝山中部中学校教諭
		道 場 康 智	勝山中部中学校教諭
		木 村 美智子	勝山北部中学校教諭
		笠 川 武 浩	勝山北部中学校教諭

令和 4 年度改訂委員		笠 川 武 浩	勝山南部中学校教諭
		白 井 孝 礼	勝山南部中学校教諭
		宮 口 了	勝山中部中学校教諭
		竹 内 和 也	勝山中部中学校教諭
		岡 崎 一 郎	勝山北部中学校教諭

わたしたちの勝山市 - 中学校編 - ⑤

2023 年 3 月 著 者	勝山市教育研究会中学校社会科分科会
代 表	道 関 直 哉
写真協力	勝山市
印 刷 所	株式会社 マツイ印刷

本書に使用した地図は建設省（現在：国土交通省）国土地理院庁の承諾を得て同院発行の 5 万分の 1 地形図、2 万 5 千分の 1 地形図を複製したものである。

（承認番号）平 10 北複第 151